

## 平成 30 年度 病院事業の概況

### 1 医療の質の向上について

平成 30 年度は、「断らない救急」の取組を更に強化するため、4 月から外科系救急の実施日を拡大し、7 月からは 24 時間 365 日体制で救急診療を開始しました。また、急増する認知症疾患等に対応するため、神経内科を標榜し、4 月から「脳神経センター」を開設するとともに、理学療法士 2 名を増員し、退院後の身体機能の向上を目的としたリハビリテーションの提供を拡充するなど超高齢社会に対応できる診療内容の充実に取り組みました。

さらに、今年度は磁気共鳴断層撮影装置 (MRI) や 3D 撮影機能を搭載した X 線乳房撮影装置 (マンモグラフィ) 等の医療機器及び内視鏡情報管理システムや放射線管理システムなどの機器を更新し、診療機能の充実に取り組みました。

地域医療に関する取り組みでは、近隣の医療従事者への緩和ケア普及を目的に「緩和ケア研修会」を初開催しました。また、在宅医療の推進のため芦屋市医師会と「芦屋緩和医療連絡協議会」を設立するなど、地域医療の質向上及び連携強化に取り組んだ結果、平成 30 年度は特に緩和ケア内科への紹介数及び入院患者数が増加し、緩和ケア病棟の病床稼働率は 91.1%と前年度に比べ 21.3 ポイント上昇しました。

業務運営コストの削減に向けた取り組みでは、医療機器購入や業務委託等について診療機能やサービスの質の向上を図りながら業者選定委員会等で徹底的に精査を行うとともに、精力的な価格交渉を実施した結果、対予算比での大幅な経費の削減効果を得ました。また、診療材料費においても前年度より実施している「診療材料費等検討委員会」を定期的で開催し、診療材料の単価削減に取り組みました。さらに、後発医薬品についても使用率 91.9%と前年度に比べ 3.2 ポイント上昇するなど、経営の改善に取り組みました。

その他、市民を対象とした公開講座や健康講座を定期的で開催するとともに、9 月には第 10 回目となる「がんフォーラム」、11 月にはホスピタルフェスタを開催し、疾病予防の啓発および病院広報に努めました。

### 2 患者数について

入院患者数は、延べ 66,038 人 (1 日平均 180.9 人) と、前年度に比べ 3,515 人 (1 日平均 9.6 人) 増加し、病床稼働率は 90.9%と前年度に比べ 4.8 ポイント上昇しました。

外来患者数は、延べ 85,562 人 (1 日平均 350.7 人) と、前年度に比べ 1,634 人 (1 日平均 6.7 人) の増加となりました。

### 3 経営状況について

経営状況につきましては、総収益は、5,340,080千円と前年度より381,182千円の増加となりました。入院収益では、入院患者数の増加に加え、入院単価においても、前年度に比べ1,595円増加の47,994円となり、268,427千円増加しました。

また、外来収益では、外来患者数の増加に加え、外来単価が前年度に比べ75円増加の12,670円となり、27,002千円増加しました。さらに、施設使用料等の増加に伴い室料差額収益も28,369千円増加したことが主な要因です。

総費用は、5,513,248千円と前年度より108,987千円の増加となりました。主に職員数増加に伴う給料、救急体制強化に伴う宿日直手当などの給与費の増加及び入院患者数増加に伴う診療材料費の増加によるものです。

その結果、今年度収支は173,168千円の純損失となり、当年度未処理欠損金は12,155,451千円となりました。しかしながら、今年度は、予算額に比べ純損失額を172,128千円縮減すると共に、長期借入を行うことなく病院運営を行うことができました。

以 上

# 市立芦屋病院新改革プラン

(平成29年度～令和2年度)

第3版

令和元年7月

# 目 次

## 市立芦屋病院新改革プラン

はじめに	1
<b>I 当院の目指すべき方向</b>	<b>2</b>
1 病院概要	2
2 芦屋市を取り巻く環境	2
3 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	5
4 経営の効率化	7
5 再編・ネットワーク化	8
6 経営形態の見直し	8
<b>II 市民に提供する診療機能の向上に向けての取組</b>	<b>8</b>
1 診療事業	9
2 臨床研究事業	15
3 教育研修事業	16
<b>III 業務運営効率化への取組</b>	<b>17</b>
1 効率的な業務運営体制	17
2 業務運営の見直しや効率化による収支改善	19
<b>IV 収支計画及び資金計画</b>	<b>22</b>
1 経営の改善	22
2 収支計画の策定	22
3 医療機器・建物整備に関する計画	22
4 債務の償還	23
<b>V その他業務運営に関する取組</b>	<b>23</b>
1 広報に関する事項	23
2 病院機能評価	23

・新改革プラン評価委員会 委員名簿 24

**資料**

1	市立芦屋病院収支計画	25
2	市立芦屋病院医療機器整備計画	33
3	市立芦屋病院施設整備計画	37
4	市立芦屋病院新改革プラン進捗状況	38
5	平成30年度の主な取組	43
6	収支状況	49
7	施設基準届出一覧	50
8	各種委員会活動状況	53
9	講座等活動実績	69
10	研究発表・論文等	74
11	実習受入実績	97

**新改革プラン（第3版）について**

**※計画変更箇所**

計画本文のアンダーライン部分が昨年度からの変更箇所  
(数値目標の変更については、アンダーライン部分が変更後の数値、下段の数値は第2版にて設定した目標値)

**※計画変更理由**

- ① 標榜科名変更に伴う診療科目の変更
- ② 市立芦屋病院収支計画見直しによる変更
- ③ 元号改正に伴う年度表記の修正

## はじめに

市立芦屋病院は、総務省から示された公立病院改革ガイドラインに基づき、平成 21 年度から 5 年間の「市立芦屋病院改革プラン」を策定し、平成 21 年 4 月には経営形態を地方公営企業法の全部適用にし、病棟新築をはじめとする病院施設の全面リニューアルや診療機能の充実などの経営改革に取り組んでまいりました。

改革プラン終了後の平成 26 年度からは、引き続き病院事業の経営改革を進めるため、「市立芦屋病院中期経営計画」を策定し、新築病院施設の有効活用とより一層の診療機能の充実を図ってきました。しかしながら、慢性的な医師不足の問題や医療機能の分化・推進による急性期病床の削減など、医療を取り巻く厳しい社会環境のなか、平成 27 年度の経常収支では 3 億 7 千万円の純損失となり、さらなる経営改革と収支改善が求められています。

平成 27 年 3 月には総務省から新たな公立病院改革ガイドラインが示され、平成 28 年度までに新公立病院改革プランを策定し、病院機能の見直しや病院事業経営の改革に総合的に取り組むよう要請されています。

新公立病院改革プランの内容は、前ガイドラインで示された「経営の効率化」「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」の 3 つの視点に加え、都道府県が策定する地域医療構想を踏まえて公立病院として果たすべき役割を明確にした上で、さらなる改革を推進する取組を示す必要があります。

平成 28 年 10 月に策定された兵庫県地域医療構想では、団塊の世代がすべて後期高齢者となる 2025 年（令和 7 年）に向け、「住民が、住み慣れた地域で生活しながら、状態に応じた適切で必要な医療を受けられる」地域医療の提供体制（＝「地域完結型医療」）の構築を目的とし、①医療機能の分化・連携、②在宅医療の充実、それを支える③医療従事者の確保が重点施策として掲げられています。

当院は、地域の公立病院として、これからの超高齢社会を見据え、患者の生活の質（QOL）の維持・向上を目標に、患者にとって最適な医療の提供に努めてまいりました。また、兵庫県地域医療構想において示されているとおり、地域完結型医療を支えるため、公立病院の果たすべき役割は今後さらに増していくものと考えております。

以上のことから、当院では、平成 29 年度からの「市立芦屋病院新改革プラン」（以下「新改革プラン」という。）を策定し、今後の地域における当院の目指す姿を示すとともに、本市の中核病院として質の高い医療を安定的に提供できるよう、これまで以上に経営改革と収支改善を図ってまいります。

# I 当院の目指すべき方向

## 1 病院概要

名称	市立芦屋病院
所在地	芦屋市朝日ヶ丘町 39 番 1 号
開設者	芦屋市長
開設年月日	昭和 27 年 7 月 12 日
許可病床数	199 床（一般病棟 175 床，緩和ケア病棟 24 床）
診療科目	内科 血液・腫瘍内科 消化器内科 糖尿病・内分泌内科 循環器内科 呼吸器内科 緩和ケア内科 <u>脳神経内科</u> 外科 消化器外科 乳腺外科 肛門外科 整形外科 産婦人科 小児科 眼科 耳鼻いんこう科 皮膚科 形成外科 放射線科 麻酔科 ペインクリニック内科 リハビリテーション科 以上 23 診療科，院内標榜を除く。
運営形態	地方公営企業法の全部適用（平成 21 年 4 月 1 日～）

## 2 芦屋市を取り巻く環境

### (1) 人口動態

芦屋市の人口推計では、2025 年（令和 7 年）には団塊世代が 75 歳以上を迎えるため、75 歳以上の人口が 2015 年から 2025 年の間に 12,527 人が 18,354 人に増加すると推計される。又、65 歳以上の人口においても、25,987 人が 29,792 人に増加することが推計されている。

### 【芦屋市将来推計人口】

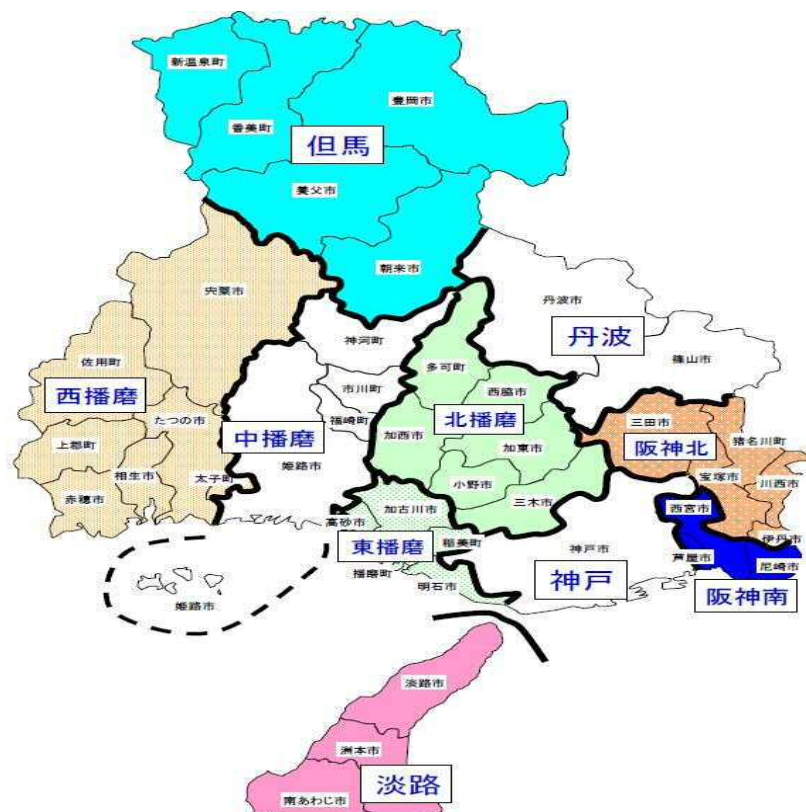
項目	2015 年	2025 年
総人口	94,851 人	96,051 人
65 歳以上	25,987 人	29,792 人
65 歳以上の割合	27.4% (県全体 27.1%)	31.0% (県全体 30.4%)
75 歳以上	12,527 人	18,354 人
75 歳以上の割合	13.2% (県全体 12.8%)	19.1% (県全体 18.3%)

出典：芦屋市将来人口推計報告書（平成 27 年 3 月）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 25 年 3 月推計）

(2) 二次医療圏

兵庫県は、10の二次医療圏に分かれており、当院は芦屋市、西宮市及び尼崎市で構成される阪神南圏域に位置している。



○圏域の現況

(H26.10.1 現在)

圏域	構成市町	人口(人)	面積(k㎡)
神戸	神戸市	1,537,864	557.02
阪神南	尼崎市, 西宮市, 芦屋市	1,029,517	169.15
阪神北	伊丹市, 宝塚市, 川西市, 三田市, 猪名川町	726,539	480.89
東播磨	明石市, 加古川市, 高砂市, 稲美町, 播磨町	714,587	266.40
北播磨	西脇市, 三木市, 小野市, 加西市, 加東市, 多可町	275,971	895.61
中播磨	姫路市, 福崎町, 市川町, 神河町	578,624	865.02
西播磨	相生市, たつの市, 赤穂市, 宍粟市, 太子町, 上郡町, 佐用町	263,148	1,566.98
但馬	豊岡市, 養父市, 朝来市, 香美町, 新温泉町	171,295	2,133.30
丹波	篠山市, 丹波市	106,812	870.80
淡路	洲本市, 南あわじ市, 淡路市	136,848	595.74
兵庫県		5,541,205	8,400.90

出典:「兵庫のすがた2015」



【参考】

阪神南圏域に所在する主たる病院群の現状は以下のとおりである。

・兵庫医科大学病院	963 床
・関西労災病院	642 床
・兵庫県立尼崎総合医療センター	730 床
・兵庫県立西宮病院	400 床
・西宮市立中央病院	257 床
・市立芦屋病院	199 床
・笹生病院	195 床

(3) 地域医療構想<sup>1</sup>

地域医療構想は、医療分野での医療機能の分化・連携により、患者の状態に応じた適切な医療を提供する体制を整備するとともに、在宅医療の充実等により、退院患者の生活を支える体制の構築を目指すものである。阪神南圏域においては、2025年（令和7年）の医療需要に基づく必要病床機能では、高度急性期病床 58 床及び回復期病床 2,254 床の不足、急性期病床 1,259 床及び慢性期病床 663 床の過剰が見込まれており、病床総計では、390 床の不足となっている。また、5 疾病においては、2025年（令和7年）に大きく増加する、がん、循環器系疾患（特に脳梗塞）及び精神疾患（特に認知症）の対策が急務とされている。

なお、地域医療構想は、兵庫県保健医療計画（平成 25 年 4 月 1 日）<sup>2</sup>の一部として策定されたものであり、地域医療構想に記載がない事項であっても、同計画を踏まえる必要がある。

【2025年（令和7年）の必要病床数推計結果】

2025年（R7）推計		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	病床総計
阪神南 圏域	R7 必要病床数	1,279	3,468	2,859	1,664	9,270
	H26 病床機能報告	1,221	4,727	605	2,327	8,880
	差引	△58	1,259	△2,254	663	△390
兵庫県 全体	R7 必要病床数	5,901	18,257	16,532	11,765	52,455
	H26 病床機能報告	5,053	28,747	4,506	14,811	53,117
	差引	△848	10,490	△12,026	3,046	662

<sup>1</sup> 各圏域において協議の場を設け、国・県・市町の取組の推進と医療機関等の自主的な取組の促進により、「住民が、住み慣れた地域で生活しながら、状態に応じた適切に必要な医療を受けられる」地域医療の提供体制（＝「地域完結型医療」）の整備することを目的としたもの。

<sup>2</sup> 医療法第30条の4に基づき、都道府県が策定する医療計画であると同時に、県民、市町、保健・医療機関、関係団体の参画と協働のもと、それぞれが取り組むべき保健・医療分野の基本的指針（ガイドライン）としての性格を持つ。

### 3 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

#### (1) 地域医療構想を踏まえた当院の果たすべき役割

当院は基本理念である、芦屋市の中核病院として地域社会に貢献し、患者の意思を尊重し、最善の医療と癒しを提供しており、市民の健康保持に必要な医療を提供する市内の中核病院として、地域の診療所等との役割分担と連携により、救急医療を含め診療体制の充実を図っている。

地域医療構想では、阪神南圏域は急性期病床が過剰とみられており、今後、削減の議論が進められることが予想される。当院としては、平成22年1月に先行して急性期病床272床から199床（うち急性期病床175床、緩和病床24床）に病床の縮小を実施している。今後とも芦屋市の中核病院として、診療機能を適切に提供していくためには、現行の病床規模・機能は必要と考えているが、現在、医療圏内において検討が進められている他の公立病院の再編状況を見極めるとともに、地域医療構想を踏まえた当院の担うべき役割を十分に検討していく。併せて、今後の急性期、回復期及び慢性期の医療需要の動向並びに診療報酬制度の改定状況を注視していく。

#### (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

団塊世代が75歳以上となる2025年（令和7年）を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現が必要とされている。また、認知症高齢者の増加が見込まれることから、地域での生活を支えるためにも重要と考えられる。

当院では、医師会、歯科医師会、薬剤師会及び芦屋市福祉部等の行政の代表者により構成される「在宅医療推進協議会」に参加し、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築に向けて取組を進めている。特に切れ目のない在宅医療、介護連携体制を構築するためには患者急変時の受入れ医療機関の確保は重要であり、地域の後方支援病院としての役割を十分に果たせるよう体制を整備する。また、在宅復帰促進に向けては、地域連携室に退院支援に関わる看護師を配置し、住み慣れた地域に安心して戻れるよう医療機関・介護施設等との連携強化を含め取組を進めていく。今後増加が見込まれる認知症患者については、芦屋市認知症初期集中支援チーム<sup>3</sup>との積極的な連携、認知症看護認定看護師の配置など、様々な角度から地域包括ケアシステムの構築へ向けて積極的に関与していく。

---

<sup>3</sup> 認知症サポート医、看護師、高齢者生活支援センター職員により編成されたチームが、認知症やその疑いのある方、家族に対して訪問等による支援を概ね6ヶ月以内の期間に集中的・包括的に行い、在宅での自立生活のサポートを行う。

(3) 一般会計負担の考え方

地方公営企業法に基づく基準内繰入を原則として、以下のとおりの繰入を行うとともに、保健・福祉との連携経費など、社会情勢の変化に伴って生じる新たな出資等については別途協議とする。

① 医業収益

(基準内繰入)

- ・ 救急医療の確保に要する経費（救急受入体制の構築に伴う経費）
- ・ 保健衛生行政事務に要する経費

② 医業外収益

(基準内繰入)

- ・ 病院事業債利息の 1/2（平成 14 年度以前分は 2/3）
- ・ リハビリテーションに要する経費（収入を除いた額）
- ・ 小児医療に要する経費（収入を除いた額）
- ・ 高度医療に要する経費（収入を除いた額）
- ・ 院内保育に要する経費（収入を除いた額）
- ・ 医師及び看護師の研究研修に要する経費の 1/2
- ・ 共済追加費用の負担に要する経費
- ・ 医師の勤務環境の改善に要する経費
- ・ 医師の派遣を受けることに要する経費
- ・ 基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費
- ・ 児童手当の給付に要する経費

(別途協議)

- ・ 医療・福祉ネットワークバスの運行に要する経費（予め協議において按分した額）

③ 出資金

(基準内繰入)

- ・ 病院事業債元利償還の 1/2（平成 14 年度以前分は 2/3）
- ・ 病院建設改良に要する経費 1/2

【一般会計繰入金】

(単位：千円)

項目	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和	令和
	実績	予定	予定	予定	元年度 予定	2 年度 予定
①医業収益	251,485	258,167	255,986	260,826	<u>269,598</u>	<u>269,598</u>
					269,610	269,610
②医業外収益	244,845	311,247	281,173	287,273	<u>310,010</u>	<u>308,322</u>
					310,142	309,165

③出資金	181,852	196,275	187,032	167,448	<u>133,359</u>	<u>178,703</u>
					133,358	207,028
合計	678,182	765,689	724,191	715,547	<u>712,967</u>	<u>756,623</u>
					713,110	785,803

(4) 市民の理解

市立芦屋病院新改革プラン策定委員会に市民公募による委員を加え、市民の意見の反映に努める。新改革プランの進捗については、芦屋市議会に報告するとともにホームページに公開するなど、市民への情報提供を積極的に行っていく。

4 経営の効率化

(1) 経営指標に係る数値目標の設定

項目	単 位	27年度 実績	28年度 目標	29年度 目標	30年度 目標	令和 元年度 目標	令和 2年度 目標
① 経常収支比率(※)	%	93.0	91.9	92.9	94.9	<u>99.6</u> 99.3	<u>103.5</u> 102.1
② 医業収支比率(※)	%	90.3	87.1	88.6	90.6	<u>95.0</u> 94.7	<u>99.1</u> 97.7
③ 入院単価	円	45,092	44,884	46,000	49,000	51,000	53,000
④ 外来単価	円	12,219	12,374	12,500	12,700	12,900	13,100
⑤ 病床利用率(※)	%	78.3	81.9	82.2	83.2	85.1	87.9
⑥ 病床稼働率(※)	%	83.8	87.6	87.9	89.0	91.0	94.0
⑦ 1日入院患者数	人	166.8	174.3	175.0	177.1	181.1	187.1
⑧ 1日外来患者数	人	340.8	339.4	350.0	350.0	350.0	350.0
⑨ 人件費比率	%	62.7	64.4	63.9	64.3	<u>62.8</u> 62.0	<u>60.2</u> 59.7
⑩ 材料費比率	%	17.6	19.4	18.6	18.4	<u>17.5</u> 18.5	<u>17.6</u> 18.6
⑪ 医師数	人	31	31	34	35	37	40
⑫ 看護師数	人	158	151	150	155	155	155

※経常収支比率：((医業収益+医業外収益) / (医業費用+医業外費用)) ×100

※医業収支比率：(医業収益 / 医業費用) ×100

※病床利用率：24時現在病院に在院中の延患者数を年間病床数で除した率

※病床稼働率：24時現在病院に在院中の延患者数に退院患者数を加えた数を年間病床数で除した数

## (2) 経常収支比率に係る目標設定の考え方

医師をはじめとする医療体制の充実を進め、平成24年度に更新築した病棟などの経営資源を最大限に活用し、救急患者の受入れや新規紹介患者の増加による病床稼働率の向上、外科系医療の拡充など医療機能充実に伴う診療単価の増加などによる収益増を図り、令和2年度における経常収支の黒字化を目指す。

## 5 再編・ネットワーク化

圏域の西部に位置する県立西宮病院、西宮市立中央病院との連携強化を目的に、救急医療、周産期医療、診療科の相互補完、研修等において「ネットワーク化協議」を継続する。特に周産期ネットワークについては広報強化による利用推進を図る。また、診療科の相互補完においては、当院は日本産科婦人科内視鏡学会の認定施設であるため、医師の研修受入れなどによる人的交流を進め、3病院の機能・特色を生かし、患者が住み慣れた地域において良質な医療を受けられるように、より一層の連携強化に努める。

また、阪神南北圏域(阪神7市1町)を対象とする阪神医療福祉ネットワーク「h-Anshinむこねっと」<sup>4</sup>に参加し、二次救急システム、医療機関機能情報システム、患者情報共有システム等のIT化されたネットワークを活用し、逆紹介の推進及び各種連携パスへの参加など地域医療の効率化を目指す。なお、当院は神戸圏域とも隣接しており、この地域の医療機関との連携にあたっては当院独自のITネットワークである「芦っこメディカルリンク」<sup>5</sup>を活用し、患者の診療情報を共有するなど連携強化を図る。

## 6 経営形態の見直し

当院は、平成21年4月からの地方公営企業法の全部適用を受けて、病院事業管理者を設置することにより、病院事業の独自性、医療情勢の変化への即応性を確立しつつあることからこの形態を当面は維持する。

地方独立行政法人や指定管理者制度等を用いた他の形態への変更に関しては、調査・研究を進めながら必要性がさらに認められる時点において検討を加えることとする。

## II 市民に提供する診療機能の向上に向けての取組

当院は、公衆衛生の向上に寄与すること及び市民の健康に影響のある疾病に関する医療とともに地域の中で信頼される医療の提供、調査研究及び医療従事者の育成を実施する。

---

<sup>4</sup> 患者の同意のもとに、各医療機関に保管されている医療情報を高度に暗号化してインターネットで結び、医療機関相互で共有することにより、診療に役立てるための仕組み。また、消防などの行政機関と医療機関が救急医療情報を共有し、円滑な救急医療体制の構築・運営を行う仕組み。ICTを活用して複数の医療機関を接続し、診療情報を共有して地域全体で医療に取り組むシステム

<sup>5</sup> 患者の同意のもとに、当院に保管されている医療情報を高度に暗号化してインターネットで結び、地域の診療所等のPCで閲覧を可能にするシステム。当院独自のシステムであり、神戸市や県外等の医療機関との連携にも利用可能

## 1 診療事業

利用者である市民に満足される安心で質の高い医療を提供することを主たる目標とする。

### (1) 患者の目線に立った医療の提供

#### ① 分かりやすい説明と相談しやすい環境づくり

患者が医療内容を適切に理解し、患者の意思を尊重した治療の選択が可能のように、診療ガイドラインの活用や複数職種の同席による説明などに努め、相談しやすい体制づくりに取り組む。

#### ② 患者の価値観の尊重

患者満足度調査を定期的実施し、その結果を踏まえて患者の利便性に配慮した診療時間の設定や待ち時間を短縮する取組、入院環境（アメニティ）などサービスの向上を図る。

#### 【患者満足度】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
		実績	目標	目標	目標	元年度 目標	2年度 目標
外来	%	96.0	97.0	98.0	98.0	98.0	98.0
入院	%	95.0	97.0	98.0	98.0	98.0	98.0

※ 満足及びやや満足の合計による。

### (2) 安心・安全な医療の提供

#### ① 医療倫理の確立

患者との信頼関係を醸成することが重要であり、カルテ開示など適切な情報開示に取り組むとともに、患者のプライバシーの保護に努める。

倫理委員会の組織・運営を適正に行い、倫理的事項について医療従事者に対する助言体制を整備する。

#### ② 医療安全対策の充実

リスクマネージャーを中心に非日常（ヒヤリハット事例）報告の適正な分析等のリスク管理を推進するとともに、他病院との情報交換を実施するなど安全対策の標準化に取り組む。特に院内感染対策については、感染対策の専門的知識を持った医師、看護師、薬剤師及び検査技師が協力して感染制御チーム（ICT）<sup>6</sup>を結成し、院内の感染対策の推進に努めている。また、地域の連携医療機関と相互に訪問し、感染対策の評価を実施するなど院内サーベイランス<sup>7</sup>の充実に取り組む。

<sup>6</sup> 病院などの医療施設で、建物内の感染症に関する予防、教育、医薬品などの管理を担当する専門チーム

<sup>7</sup> 感染症の発生状況を正確かつ継続的に調査・把握することにより感染症の予防に役立てるシステム

医療安全対策の充実に貢献する観点から、医療事故や医薬品等安全情報の報告を徹底する。平成 27 年 10 月に始まった医療事故調査制度<sup>8</sup>を受け、病院長をトップとした幹部職員の会議において、全ての死亡症例を検討するなど、リスク管理の徹底を進める。

(3) 質の高い医療の提供

① クリティカルパス<sup>9</sup>の活用

チーム医療の推進，患者に判りやすい医療の提供や医療の標準化のため，クリティカルパスの活用を推進し，入院患者に対する適用率を 50%以上にする。

【クリティカルパス適用率】

項目	単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和	令和
		実績	目標	目標	目標	元年度 目標	2 年度 目標
クリティカルパス	%	40.3	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0

② EBM<sup>10</sup>の推進

エビデンスに基づいた医療（Evidence Based Medicine）を実践するため，臨床研究により得られた成果を臨床に反映させるとともに臨床評価指標の充実を図る。診療情報データベースを確立し，利用を促進する。

③ 患者の QOL<sup>11</sup>の向上

快適な療養環境の提供や，接遇・コミュニケーションの質向上などの改善に取り組み，患者満足度調査における QOL に関する項目の評価の向上に努める。

④ 職種間の協働，チーム医療の推進

チーム医療の推進に必要な多種多様な医療スタッフが，その高い専門性を連携・補完し合い，職種間の協働と役割分担された業務を実施することにより，質の高い医療を効率的に提供する。

⑤ 超高齢社会への対応

高齢者に多くみられる疾患（がん，骨そしょう症，肺炎，認知症，循環器疾患等）に対する診療内容の充実を図るとともに在宅医療について研究する。

各種老健施設及び地域の在宅医療を担う開業医の後方支援病院として連携強化を

<sup>8</sup> 医療の安全を確保するために，医療事故の再発防止を行うことが目的。医療事故が発生した場合，医療機関は，遺族への説明，医療事故調査・支援センターへの報告，原因を明らかにするための調査の実施，調査結果の遺族への説明及びセンターへの報告を行う。

<sup>9</sup> 入院中に行われる検査・処置・看護・食事などを入院から退院までの時間順にまとめた診療計画表

<sup>10</sup> 医学の分野では，ある治療法がある病気・怪我・症状に対して，効果があることを示す証拠や検証結果・臨床結果を指す。医療行為において治療法を選択する際「確率的な情報」として，患者にとって安全で効果のある治療方法を選ぶ際に指針として利用される。

<sup>11</sup> 物理的な豊かさやサービスの量，個々の身辺自立だけでなく，精神面を含めた生活全体の豊かさと自己実現を含めた概念

図り、在宅患者の救急受入れを積極的に行っていく。

#### (4) 病院に期待される機能の発揮

##### ① 地域医療への貢献

##### 1) 紹介率・逆紹介率向上への取組

地域において必要とされる医療を的確に実施するため、地域連携クリティカルパス実施件数の増加や紹介率・逆紹介率の向上など地域医療機関との連携強化を図るとともに、地域医療の向上に積極的に取り組む。紹介率、逆紹介率については、地域医療支援病院<sup>12</sup>の承認基準である紹介率 50%、逆紹介率 70%を目標とする。

##### 【紹介率・逆紹介率】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
		実績	目標	目標	目標	元年度 目標	2年度 目標
紹介率	%	40.4	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
逆紹介率	%	63.9	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0

##### 2) 在宅復帰への取組

地域包括ケアシステムでは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される必要があり、当院が担う「医療」においては、患者が早期に在宅へ復帰できる仕組みが重要となる。地域のかかりつけ医、連携病院、介護老健施設及び地域包括支援センター等と連携強化を進めるとともに、入院患者の生活状況等を早期に把握するため、地域連携室に退院支援に精通した看護師、社会福祉士を配置し、患者一人一人に最適な在宅ケアが提供できるよう取組を行っていく。特に認知症高齢者の増加が見込まれるため、地域包括ケアシステム構築に向け、積極的に役割を担っていく。

##### 【在宅復帰率】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
		実績	目標	目標	目標	元年度 目標	2年度 目標
在宅復帰率	%	89.1	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0

※在宅復帰率：7対1入院基本料算定要件の一つ。直近6ヶ月間に7対1入院基本料を算定する病棟から退院した患者のうち、自宅、回復期病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟、介護老健施設、居住系介護施設等へ退院した患者数

<sup>12</sup> かかりつけ医、かかりつけ歯科医を支援し、二次医療圏単位で地域医療の充実を図る病院として、医療法第4条の規定に基づき都道府県知事が地域医療支援病院として承認した病院



の割合が80%以上必要

② 兵庫県保健医療計画における5事業（救急・災害・へき地・周産期・小児）への取組

1) 救急医療

引き続き内科二次救急体制を24時間365日堅持し、小児救急体制、外科系救急体制及び消化器内視鏡救急体制の拡充を図る。特に外科系救急においては、外科の体制の整備を行い、救急受入日の拡充等を進め、最終的には24時間365日の実施を目指す。また、救急車搬送において、市外へ流出している救急患者を当院にて受け入れていくことにより、市民が安心して住める救急医療の一翼を担い、地域の中核病院としての役割を果たす。

【救急件数】

項目	単 位	27年度 実績	28年度 目標	29年度 目標	30年度 目標	令和 元年度 目標	令和 2年度 目標
救急受入患者数	件	3,943	4,100	4,300	4,400	4,500	4,700
内救急車搬送	件	1,225	1,250	1,350	1,400	1,450	1,500
内救急入院数	件	1,269	1,300	1,350	1,400	1,450	1,500

2) 周産期医療<sup>13</sup>

県立西宮病院等の連携医療機関とのネットワークを強化するとともに、地域のニーズに対応して周産期医療体制の整備を図る。また、ネットワークのシステムについて、積極的に市民等に広報を行うことにより、利用者の増加に努める。

3) 災害時の医療体制

災害時の医療では、病院自体も被災して病院としての機能が制限されることやマンパワーの不足が予想される。このため、市災害対策本部との連携のもと芦屋市医師会と協働して負傷者等の救急対応を行う。

また、県下の自治体病院が相互応援体制の協定を締結しており、災害が発生した直後に被災した病院が独自に十分な医療活動ができない場合に、その外の病院が相互扶助精神に基づき、速やかに応援協力することとなっている。今後とも周辺自治体病院との連携のもとに地域住民が安心できる医療の提供に努めていく。

4) 小児（救急）医療

芦屋市内唯一の小児入院医療機関として、小児救急を含めた地域の小児科医療を支援していくとともに、腎臓疾患の診療及び学習支援外来などの特色ある外来診療

<sup>13</sup> 周産期とは、妊娠22週から生後満7日未満までの期間をいい、周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要とされている。

にも引き続き取り組んでいく。

③ 兵庫県保健医療計画における5疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患）への取組

1) がん対策の強化

- ・がん検診・人間ドックの充実
- ・がん予防診療（ピロリ菌外来・肝炎ウイルス対策）
- ・低侵襲手術（上部・下部消化管内視鏡下手術，腹腔鏡下手術，胸腔鏡下手術）の拡充
- ・外来・入院化学療法
- ・がん緩和ケア（緩和ケアチーム<sup>14</sup>介入・緩和ケア病棟）
- ・がんに関する知識の啓発
- ・兵庫県がん地域連携パスの活用（胃がん・大腸がん・肝臓がん・子宮がん・乳がん）
- ・がん診療連携拠点病院に準じる病院として，兵庫県がん診療連携協議会幹事会への参加，各種事業への協力，地域診療連携の推進
- ・他の医療機関との連携による放射線治療の拡充

2) 脳卒中への対応

- ・西宮市脳卒中地域連携パス会議へ参加し，比較的医療ニーズの高い患者の積極的な受入れを実施
- ・脳卒中の急性期治療を担う医療機関との連携強化
- ・機能改善に向けた理学療法士<sup>15</sup>，作業療法士<sup>16</sup>，言語聴覚士<sup>17</sup>によるリハビリテーションの実施
- ・早期発見，予防につながる脳ドックの実施

3) 循環器疾患への対応

- ・循環器疾患（高血圧・動脈硬化・心筋梗塞）の診断・治療
- ・下肢動脈末梢血管造影<sup>18</sup>と下肢動脈形成術<sup>19</sup>

---

<sup>14</sup> 患者と家族のQOL向上のために，緩和ケアに関する専門的な知識や技術を持った医師・看護師及び薬剤師等で構成したチームにより，患者と家族へのケアを行うチーム

<sup>15</sup> PT (Physical Therapist) と呼ばれ，ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して，基本動作能力（座る，立つ，歩くなど）の回復や維持及び障害の悪化の予防を目的に，運動療法や物理療法（温熱，電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて，自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職

<sup>16</sup> OT (Occupational therapist) と呼ばれ，指を動かす，食事をする，入浴をする，など日常生活を送る上で必要な機能回復をサポートする専門職

<sup>17</sup> ST (Speech-Language-Hearing Therapist) と呼ばれ，音声機能，言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため，言語訓練その他の訓練，これに必要な検査及び助言，指導その他の援助を行うことを業とする専門職

<sup>18</sup> 閉塞性動脈硬化症が適応疾患であり，下肢動脈の閉塞・狭窄の有無を検査すること。

- ・徐脈性不整脈<sup>20</sup>に対する診断・治療
- 4) 生活習慣病対策の拡充
  - ・糖尿病対策（教育入院・糖尿病教室）
  - ・糖尿病合併症（循環器・神経・腎臓・眼底）の早期発見・診断・治療
  - ・循環器疾患（高血圧・動脈硬化・心筋梗塞）の診断・治療
  - ・脂質異常症の診断・治療
  - ・睡眠時無呼吸症候群（SAS）<sup>21</sup>の診断・治療
  - ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）<sup>22</sup>の診断・治療
- 5) 認知症合併患者への対応
  - ・認知症看護認定看護師（H28.4月認定）、認知症ケア専門士の活用（H26年4月認定）
  - ・医師，認知症看護認定看護師，精神保健福祉士等により構成された認知症ケアチームの設置（H28.4月活動開始）
  - ・芦屋市認知症初期集中支援チームとの連携による積極的な救急患者受入
  - ・外来診療における軽度認知障害（MCI）の早期発見
  - ・芦屋市高齢介護課，地域包括支援センターとの連携
  - ・認知症，早期診断に関する知識の啓発

④ 外科系手術の拡充

外科系救急の体制整備，外科系疾患の患者受入を強化することで外科系手術件数の増加を目指す。また，効率的な手術室稼働が出来るよう麻酔科医の増員及び手術室等のスタッフの充実を図り，外科系手術の増加を目指す。

【手術件数（全診療科）】

項目	単	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
	位	実績	目標	目標	目標	元年度	2年度
						目標	目標
手術件数	件	2,250	2,300	2,500	2,650	2,800	3,000

⑤ 産婦人科医療の拡充

日本産科婦人科内視鏡学会の認定研修施設として，専門的知識が必要な女性泌尿器疾患（骨盤臓器脱や尿失禁など），高度な技術を必要とする腹腔鏡下手術に注力するとともに，婦人科腫瘍及び更年期婦人疾患にも対応していく。

<sup>19</sup> 狭窄を起こした血管に対して，血管の内腔を拡張する治療のこと。

<sup>20</sup> 心拍数が遅くなる不整脈

<sup>21</sup> 睡眠時に呼吸停止又は低呼吸になる病気

<sup>22</sup> 慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称。タバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患であり，喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病

⑥ 整形外科医療の拡充

人工関節センターを平成 28 年 10 月に設置し、高齢者の疾患として増加が見込まれる変形性ひざ関節症の治療に専門的に対応している。また、外傷・転倒による骨折等の救急患者の診断、治療に対応し、術後の診療についてはリハビリテーション科と一体となって取り組む。

⑦ リハビリテーションの拡充

理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士による総合的なリハビリテーションが提供できるよう体制を整備するとともに、今後、増加が予想される脳卒中に伴う機能回復リハビリテーション、がん患者に対するリハビリテーション及び高齢者リハビリテーションの受入れを積極的に行うため、人員確保を進める。

【リハビリテーション件数】

項目	単 位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和 元年度	令和 2 年度
		実績	目標	目標	目標	目標	目標
リハビリテーション 件数	件	26,772	23,000	32,000	35,000	36,000	37,000

⑧ 総合診療

今後、医療のなかでますます重要な役割を果たしていく総合診療について、患者のからだや心が抱える問題を総合的に診療し、必要に応じて専門医への橋渡しを行う「総合診療専門医」<sup>23</sup>を育成する。

⑨ 政策医療の適切な実施

新型インフルエンザ等の感染症に対しては、兵庫県健康福祉事務所（保健所）と連携し、地域公的医療機関の責務を果たす。

また、子ども子育て支援事業への取組として、現在、院内保育所で行っている病児・病後児保育を継続して行っていく。

2 臨床研究事業

(1) 治験の推進

平成 25 年 3 月に治験センターを設置し、治験の実施を積極的に行っており、今後も、臨床研究事業に関与していく。

(2) 研究倫理の確立

<sup>23</sup> 専門化・細分化した特定の臓器・疾患に限定せず、多角的に診療する医師

臨床研究や治験を実施する際には、病院に設置された倫理委員会、治験審査委員会の審議を徹底する。

### 3 教育研修事業

#### (1) 質の高い医療従事者の育成・確保

##### ① 質の高い医師の育成

初期臨床研修<sup>24</sup>プログラムに基づき、質の高い研修を実施して良質な医師の育成を行う。大学の嚮掛け研修の実施及び臨床研修連携病院の拡充を図る。

臨床研修終了後<sup>25</sup>の医師に対する専門分野の研修において、広く公募を行うとともに、基幹型病院との連携により後期研修プログラムの充実を図り、良質な医師を育成する。併せて幅広い総合的な診断能力を有し、全人的な医療を推進できる医師の育成に取り組む。

専門研修を担当する医師においては、専門医、認定医、指導医等の資格取得を促進し、医療の質の向上を図る。特に、臨床研修医指導医については、取得要件に該当する医師において全員が取得するよう努める。また、緩和ケア講習会については、全医師が受講済みとなるよう努める。

#### 【研修医数】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
		実績	目標	目標	目標	元年度 目標	2年度 目標
初期研修医	人	3	3	6	6	6	6
後期研修医	人	1	2	3	4	5	6
合計	人	4	5	9	10	11	12

##### ② 質の高い看護師の育成

使命感を持った質の高い看護師の育成を行うとともに、高度な看護実践能力を持ち、医師など他職種との協働によりチーム医療を提供していくことのできる看護師を育成するため、医療と一体となった看護教育に取り組む。

全看護師の技術及び意識向上に資するよう、専門看護師<sup>26</sup>、認定看護師<sup>27</sup>等の採用及び資格取得を推進し、看護の質の向上を図る。

<sup>24</sup> 医師法により、診療に従事しようとする医師は、指定する病院で2年間以上の臨床研修を受けることが義務付けられている。医師として必要な姿勢・態度、専門分野に限らず日常の一般的な診療に適切に対応できる基本的な診療能力を身につけるための制度

<sup>25</sup> 後期研修医制度を指し、初期臨床研修を修了した医師を対象とする臨床研修。専門分野の医療技術・知識を修得する目的で行われる。

<sup>26</sup> 特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師

<sup>27</sup> 複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた看護師

看護学生の実習を積極的に受け入れ、高等看護教育に資する取組を行う。

#### 【専門・認定看護師数】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
		実績	目標	目標	目標	元年度 目標	2年度 目標
専門・認定 看護師	人	7	8	12	13	13	13

#### ③ 医療従事者の育成

ユメディカル<sup>28</sup>をはじめとする医療関係職種を対象とした研修についてさらなる充実を図る。

地域の医療従事者を対象とする研究会や研修会を企画し、地域全体の医療の質向上へ取り組む。

医療関係職種を目指す学生の実習を積極的に受け入れ、高度な専門知識、専門技術を有する医療従事者の育成に努める。

#### (2) 各種検診業務の充実・市民への疾病予防の啓発

疾病の早期発見、早期治療を促進するため、人間ドック、各種がん検診、特定健診等の受診者数増加に向けてホームページ等の広報強化に取り組む。また、地域住民を対象とした「がんフォーラム」や公開講座、糖尿病教室などを定期的に開催し、疾病予防の啓発活動に積極的に貢献する。

#### (3) 調査研究・情報発信機能の強化

臨床研究、治験、診療情報の分析等をはじめ、医療に関わる調査研究・情報発信機能の強化に努める。

### Ⅲ 業務運営効率化への取組

公営企業会計原則の下、部門別決算、月次決算等の精度を高め、効率的で透明な医業経営の確立を図る。財務面においては、収支相償（経常収支ベース）の経営を目指す。これらと合わせ業務の効率化を推進する。

#### 1 効率的な業務運営体制

##### (1) 効率的で柔軟な組織体制の構築

地域特性や医療需要に応じた、効率的な組織とする。各部門における職員の配置については、各職員の職務と職責を考慮するとともに、医療を取り巻く環境の変化に応

<sup>28</sup> 医師の指示に基づき業務を行う医療従事者を指す。

じるよう取り組む。

- ① 必要に応じた看護職や事務職等の副院長の配置
- ② 病棟部門看護師と外来部門看護師の連携
- ③ 看護助手、医師事務作業補助者<sup>29</sup>、外来クラークの多様な活用

## (2) 人材確保

医療を取り巻く状況の変化に応じ柔軟に対応できるよう、任期付職員の活用も含め、幅広い年齢層から良質な人材の確保に取り組む。また、確保する職種については、医療需要に応じて柔軟に対応する。

医師の確保については、医師事務作業補助者による積極的な事務負担軽減や学会参加支援等の労働環境の充実により離職防止を図る。

また、看護師については、新人看護師への教育の充実に努めるとともに、認定看護師等の資格取得支援などにより当院でスキルアップできることを通して仕事のやりがいを高め、離職防止を図る。

### 【職員数】

項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
		実績	目標	目標	目標	元年度 目標	2年度 目標
医師	人	31	31	34	35	37	40
看護師	人	158	151	150	155	155	155
コメディカル	人	32	34	37	37	37	38
事務職	人	15	14	15	16	17	17
合計	人	236	230	236	243	246	250

※ 病院事業管理者を除く

## (3) 事務部門の体制強化

長期的視点に立って病院運営をリードできる事務職員を育成するため、医療分野及び管理分野の双方に精通できるよう適切な配置を行う。また、有資格者の確保や資格支援を促進するとともに、診療報酬の請求業務について、収益の安定的確保の面から直営化を含めて体制強化を検討する。

## (4) 組織の活性化

- ① 人材育成，教育研修機能の強化

医療分野における専門研修の充実はもとより、全人的な職員育成により患者サー

<sup>29</sup> 医師の指示により診断書・処方箋・紹介状の作成補助，電子カルテの入力代行，診察・検査・手術の予約などを行う。病院勤務医の負担軽減策として平成20年（2008年）の診療報酬改定に伴い導入

ビス向上の素地の形成と組織力の向上を図るため、接遇をはじめとした一般研修の充実にも努める。

## ② 業績評価

職員が業務で発揮した能力・適性・実績等を適正に評価し、職員の給与に反映させるとともに、業務遂行意欲の向上を図る業績評価制度について、当該制度の適切な運用を継続し、病院の能率的運営につなげる。

また、資格（認定医、認定看護師等）を生かした職務、院外活動への寄与に対する人事評価の整備に取り組む。

## ③ 医師職にふさわしい給与体系の検討

医師が自己の働きに満足感と納得を感じ、貢献度が平等・公平のもとに客観的な評価を受け、その成果が給与に反映され、仕事へのモチベーションを上げることのできる年俸制度等の導入を検討する。

## 2 業務運営の見直しや効率化による収支改善

当院の特色・機能を十分に発揮させるとともに、院内の効率的・効果的な組織構築や職員の適正配置を行う。診療報酬上の施設基準の新規取得や効率的・効果的な医療の提供を通じて安定的な収入の確保を図るとともに、コスト削減に努める。サービスの質の向上や経営改善に関する職員の自主的取組を奨励し、効率的な業務運営に向けた職員の改善意欲の向上を図る。

### (1) 経営意識の向上

#### ① 経営力の向上

毎年の事業計画を通じた経営管理サイクルをさらに充実させるとともに、正規職員の育成を図る。

経営分析及び経営改善手法等の経営能力並びに診療報酬請求事務能力の向上を目的とした研修を定期的に行うことにより、職員の資質向上に努める。

#### ② 政策医療に係るコスト分析

救急医療等の政策医療に係るコストの分析を実施し、必要な機能を維持しつつ適正なコスト管理を実施する。

#### ③ 効率的な業務プロセスの再構築について

管理会計の整備に向け、DPC<sup>30</sup>分析ツールの活用によるベンチマークを行うとともに、診療行為別医療情報等を活用できるよう電子カルテシステムの有効活用を図る。併せて診療機能支援、情報の集約化及び部門間の連携強化に活用する。

---

<sup>30</sup> Diagnosis Procedure Combination（診断群分類）の略称であり、医療費の入院1日あたりの定額支払い制度のこと。



(2) 収入の確保

① 病床稼働の向上

良質で満足度の高い医療サービスを提供することにより、より多くの患者に当院の利用を促進し、患者数の増加による収入を確保する。

② 診療報酬業務の改善

適切な診療報酬請求業務の実施に向け、業務自体の直営化を含めて検討することとし、職員の能力向上に取り組む。

③ 未収金対策の徹底

未収金については、新規発生防止及び早期解決の取組を一層推進し、また法的手段の実施等によりその回収に努める。

(3) 業務運営コストの節減等

医薬品等の購入方法や業務委託の推進・点検など様々な取組や病院の有する人的・物的資源及びそのネットワークを有効に活用し、経営改善を図ることにより、費用の節減等を図る。

① 業務運営コストの節減

1) 材料費

同種同効医薬品の整理など、さらなる使用医薬品の標準化を推進し、調達方法及び対象品目等の見直しを行い、物流一元化の評価及び検証を実施するなどにより薬品費及び診療材料費等の材料費比率の増加の抑制を図る。

包括医療等の今後の診療報酬改定を考慮しつつ後発医薬品の採用を促進し、機能評価係数において評価される数量ベースの後発医薬品使用率の85%以上を目指す。

【後発医薬品使用率】

項目	単	27年度	28年度	29年度	30年度	令和	令和
	位	実績	目標	目標	目標	元年度	2年度
						目標	目標
後発医薬品	%	56.2	60.0	70.0	85.0	85.0	85.0

※ H27の実績はH26年10月～H27年9月の実績値

2) 人件費比率等

医療の高度化や各種施策などにも留意しつつ、適切な人員配置に努めるとともに、業務委託についてもコスト削減に十分配慮した有効活用を図る。人件費比率と委託料比率を合計した率については、業務の量と質に応じた病院運営の適切な率を目指す。

業務委託、人材派遣、非正規（嘱託職員、臨時的任用職員）の雇用に際しては、指揮命令系統の整備、パートナーシップの醸成、社会経済情勢への配慮など、より良質な医療サービスの提供に主眼を置いて実施するとともに、当該業務の専門性及び特殊性を鑑み、点検を行う。

また、複数年契約や複合契約、分離発注の有効性に関しては日常的に点検を行う。

#### 【人件費比率・委託料比率】

項目	単 位	27年度 実績	28年度 目標	29年度 目標	30年度 目標	令和 元年度 目標	令和 2年度 目標
人件費比率	%	62.7	64.4	63.9	64.3	62.8 62.0	60.2 59.7
委託料比率(※)	%	7.5	7.9	7.9	7.6	7.4 7.3	7.1 7.0
合計	%	70.2	72.3	71.8	71.9	70.2 69.3	67.3 66.7

※委託料比率は、人材派遣等に係る費用を計上

#### 3) 投資の効率化

大型医療機器整備の入札にあたっては、他病院の導入実績を把握し、必要に応じて共同歩調を取るなど購入費用の削減を図る。

#### 4) 適正な契約事務の実施

原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、公平性及び透明性が十分確保される方法により実施する。また、長期継続契約の導入など経費の削減を図る。

### ② 医療資源の有効活用

#### 1) 医療機器の効率的な利用の促進

医療機器の効率的な使用に努め、臨床工学技士 (ME: medical engineer)<sup>31</sup>による集中管理及びメンテナンスを実施し、稼働率の向上を図る。また、他の医療機関からの共同利用を推進し、CT、MRI の高額医療機器の利用増加を目指す。

#### 2) 病床の効率的な利用の促進

病診連携・病病連携の推進等により、平均在院日数の短縮を図るとともに、新規患者数を増加させるなどにより収支の改善に努める。

<sup>31</sup> 高性能の医療機器の操作方法を医師や看護師等の医療スタッフに指導を行い、医療機器の保守・点検を行う技術職

## 【平均在院日数】

項目	単 位	27年度 実績	28年度 目標	29年度 目標	30年度 目標	令和 元年度 目標	令和 2年度 目標
平均在院日数	日	13.4	13.0	13.0	12.5	12.5	12.0

※緩和ケア病棟を除く。

### 3) 診療科の公募

院内開業による診療を目指した「耳鼻いんこう科」については、引き続き病院機能との連携を考慮した誘致に努め、医療機関としての機能の維持・向上及び財政基盤の安定化など有効活用に努める。

### 4) 医師事務作業補助者の活用

医師事務作業補助者の有効活用により、医師業務の軽減を行い、診療業務の効率化を推進する。

## IV 収支計画及び資金計画

新改革プランで定めた計画を確実に実施することにより、財務内容の改善を図るため、以下の目標を達成する。

### 1 経営の改善

部門別決算及び月次決算を行うことにより各部門における経営実態を早期に把握し、問題点の抽出・改善を図り、新改革プラン計画期間の各年度における経常収支比率の改善を目指す。

### 2 収支計画の策定

新改革プランにおいて策定した各項目の着実な実行を前提とした医業収支の見込を反映した収支計画を策定し、各項目について毎年度ローリングによる見直しを行い、確実な医業収支の改善を図る。

- ・市立芦屋病院収支計画（資料1）

### 3 医療機器・建物整備に関する計画

安全で良質な医療の向上を維持するためには、効率的・効果的な医療機器の更新及び施設整備は不可欠なものであり、特に、老朽化している高額医療機器等の更新については、当院に期待されている診療機能との整合性や、経費面からの費用対効果を稼働率などの客観的な視点で評価し、年次計画に基づき更新する。

- ・市立芦屋病院医療機器等整備計画（資料2）
- ・市立芦屋病院施設整備計画（資料3）

#### 4 債務の償還

新病棟建設事業等で借り入れた企業債及び毎年度の収支不足を補うために一般会計からの長期借入金の償還残高が、平成27年度末に約102億円となっている。その元利償還金の返済は令和2年度には約8億円と見込んでおり、経営を圧迫することが予測される。

そのため、収支相償を維持しつつ、借入金の元利償還が可能となるよう経営改善に努める。

### V その他業務運営に関する取組

#### 1 広報に関する事項

当院の使命、果たしている役割・業務等について、広く市民の理解が得られるよう診療内容をわかりやすくタイムリーに発信するなど積極的な広報に努める。また、ホームページだけではなくサンテレビ文字データ放送の「まちナビ」やCATV等の多様な媒体を活用した発信方法により広報を展開する。

#### 2 病院機能評価<sup>32</sup>

日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を継続的に受審し、機能の一層の充実・向上を推進する。

### VI 市立芦屋病院新改革プランの評価

新改革プランの実効性の確保に関しては、市立芦屋病院新改革プラン評価委員会（仮称）（以下、「委員会」という。）を開催し、市立芦屋病院新改革プラン進捗状況（資料4）等について、定期的に評価・検証を受けることとする。新改革プランの実行に当たり市立芦屋病院は、委員会からの指導、勧告に基づき行うことに努める。

なお、委員会の評価・検証内容は公表するものとする。

---

<sup>32</sup> 財団法人日本医療機能評価機構が実施する、医療の質と安全の向上を目的として、一定の基準に基づき、中立の立場から医療施設を評価したもの。認定を受けると5年間有効とされるが、認定の更新には再審査が必要

市立芦屋病院 新改革プラン評価委員会 委員名簿 (H31.1～)

(順不同・敬称略)

氏 名	役 職 名 等
さかもと つぐお 坂本 嗣郎	医療法人社団哺育会 アルシエクリニック 院長
こう よしお 高 義雄	芦屋市医師会会長
さとう じろう 佐藤 二郎	兵庫県済生会常務理事兼事務局長・兵庫県病院管理局長
えんどう なおひで 遠藤 尚秀	大阪市立大学大学院都市経営研究科 教授・公認会計士
おくだ けんぞう 奥田 兼三	市民委員
てらもと み え こ 寺本 三恵子	市民委員
かわはら ち か 川原 智夏	企画部長
いまみち ゆうすけ 今道 雄介	総務部参事 (財務担当部長)

## 市立芦屋病院収支計画

一般病床	175床
緩和ケア病床	24床
合計	199床

令和 1 年 7 月

総括表

I 収益の収支

(単位：千円)

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1 医業収益	4,618,656	4,953,014	5,160,205	5,436,826	5,436,826	5,436,826	5,447,452	5,436,826	5,436,826	5,436,826	5,447,452
2 医業費用（減価償却費除く）	4,650,509	4,789,115	4,961,977	5,051,691	5,081,363	5,108,805	5,128,085	5,146,947	5,145,582	5,175,083	5,199,333
3 医業損益（1-2）	△ 31,853	163,899	198,228	385,135	355,463	328,021	319,367	289,879	291,244	261,743	248,119
4 医業外収益・特別利益	375,842	425,645	403,377	403,099	401,483	399,589	397,579	395,551	393,641	391,743	389,826
5 医業外費用・特別損失	148,094	149,691	181,343	184,304	183,560	179,431	175,409	171,353	167,600	163,959	160,465
6 減価償却前損益（3+4-5）	195,895	439,853	420,262	603,930	573,386	548,179	541,537	514,077	517,285	489,527	477,480
7 減価償却費等	608,208	554,384	471,173	435,073	465,550	457,557	465,697	460,699	438,601	393,443	351,204
8 純損益（6-7）	△ 412,313	△ 114,531	△ 50,911	168,857	107,836	90,622	75,840	53,378	78,684	96,084	126,276
9 累積損益（前年度9+8）	△ 669,316	△ 783,847	△ 834,758	△ 665,901	△ 558,065	△ 467,443	△ 391,603	△ 338,225	△ 259,541	△ 163,457	△ 37,181

【参考】 当年度未処理欠損金（税抜）	11,982,282	12,155,450	12,247,264	12,122,977	12,057,213	12,008,966	11,976,026	11,965,275	11,929,096	11,875,315	11,791,380
--------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

II 資本の収支

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
10 資本の収入	236,834	555,288	632,159	552,903	311,636	387,155	421,364	390,966	336,161	283,221	261,788
11 資本の支出	695,635	1,041,527	1,112,036	1,098,017	947,689	1,045,190	1,067,519	924,692	789,432	667,700	628,846
12 差引額（10-11）	△ 458,801	△ 486,239	△ 479,877	△ 545,114	△ 636,053	△ 658,035	△ 646,155	△ 533,726	△ 453,271	△ 384,479	△ 367,058

III 資金余剰

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
13 単年度資金余剰	△ 313,010	255,986	△ 221,377	11,482	△ 128,824	△ 142,774	△ 141,296	△ 51,990	28,291	72,118	20,839
14 長期借入金	340,000	0	0	0	100,000	100,000	100,000	0	0	0	0
15 累積資金余剰	322,252	578,238	356,861	368,343	339,519	296,745	255,449	203,459	231,750	303,868	324,707

I 収益的収支

(単位：千円)

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
収	医 業 収 益	<b>4,618,656</b>	<b>4,953,014</b>	<b>5,160,205</b>	<b>5,436,826</b>	<b>5,436,826</b>	<b>5,436,826</b>	<b>5,447,452</b>	<b>5,436,826</b>	<b>5,436,826</b>	<b>5,436,826</b>	<b>5,447,452</b>
	入院収益（一般病床）	2,586,658	2,754,128	3,000,975	3,241,044	3,241,044	3,241,044	3,249,929	3,241,044	3,241,044	3,241,044	3,249,929
	入院収益（緩和ケア病床）	314,532	415,444	379,458	378,432	378,432	378,432	379,458	378,432	378,432	378,432	379,458
	外来収益	1,057,299	1,084,494	1,092,630	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740	1,118,740
	室料差額収益	240,738	271,343	251,073	261,014	261,014	261,014	261,729	261,014	261,014	261,014	261,729
	一般会計負担金	255,986	260,826	269,598	269,598	269,598	269,598	269,598	269,598	269,598	269,598	269,598
	その他医業収益	163,443	166,779	166,471	167,998	167,998	167,998	167,998	167,998	167,998	167,998	167,998
	医業外収益	<b>372,834</b>	<b>422,984</b>	<b>402,377</b>	<b>402,099</b>	<b>400,483</b>	<b>398,589</b>	<b>396,579</b>	<b>394,551</b>	<b>392,641</b>	<b>390,743</b>	<b>388,826</b>
	一般会計・他会計負担金	281,173	287,105	310,010	308,322	306,736	304,853	302,923	300,995	299,085	297,187	295,270
	その他医業外収益	91,661	135,879	92,367	93,777	93,747	93,736	93,656	93,556	93,556	93,556	93,556
収益合計	<b>4,991,490</b>	<b>5,375,998</b>	<b>5,562,582</b>	<b>5,838,925</b>	<b>5,837,309</b>	<b>5,835,415</b>	<b>5,844,031</b>	<b>5,831,377</b>	<b>5,829,467</b>	<b>5,827,569</b>	<b>5,836,278</b>	
費	医 業 費 用	<b>4,650,509</b>	<b>4,789,115</b>	<b>4,961,977</b>	<b>5,051,691</b>	<b>5,081,363</b>	<b>5,108,805</b>	<b>5,128,085</b>	<b>5,146,947</b>	<b>5,145,582</b>	<b>5,175,083</b>	<b>5,199,333</b>
	給 与 費	<b>3,018,059</b>	<b>3,075,669</b>	<b>3,240,261</b>	<b>3,271,326</b>	<b>3,300,998</b>	<b>3,328,440</b>	<b>3,345,744</b>	<b>3,366,587</b>	<b>3,365,222</b>	<b>3,394,723</b>	<b>3,416,997</b>
	給 料	891,059	914,387	982,466	1,005,484	1,017,249	1,022,775	1,029,944	1,033,359	1,039,677	1,043,038	1,045,333
	手 当	844,436	899,261	925,995	957,505	963,912	966,933	970,842	972,713	976,152	977,985	979,239
	賞与引当金繰入額	156,908	180,887	183,914	188,223	190,425	191,459	192,801	193,440	194,623	195,252	195,682
	賃 金	170,432	150,898	173,311	173,311	173,311	173,311	173,311	173,311	173,311	173,311	173,311
	報 酬	453,108	443,735	442,574	442,574	442,574	442,574	442,574	442,574	442,574	442,574	442,574
	法定福利費	382,487	390,633	393,687	402,911	407,625	409,839	412,712	414,080	416,612	417,959	418,879
	退職給付費	119,629	95,868	138,314	101,318	105,902	121,549	123,560	137,110	122,273	144,604	161,979
	材 料 費	843,997	886,148	904,749	956,148	956,148	956,148	958,124	956,143	956,143	956,143	958,119
	経 費	776,472	813,103	800,417	807,431	807,431	807,431	807,431	807,431	807,431	807,431	807,431
	研究研修費	11,981	14,195	16,550	16,786	16,786	16,786	16,786	16,786	16,786	16,786	16,786
	医業外費用	<b>128,296</b>	<b>122,837</b>	<b>151,343</b>	<b>154,304</b>	<b>153,560</b>	<b>149,431</b>	<b>145,409</b>	<b>141,353</b>	<b>137,600</b>	<b>133,959</b>	<b>130,465</b>
	支払利息	103,677	98,251	93,923	90,759	87,517	83,691	79,776	75,866	71,991	68,148	64,274
	企業債利息	103,000	97,565	92,930	89,833	86,663	82,896	79,037	75,179	71,360	67,565	63,731
	長期借入金利息	677	686	618	551	479	420	364	312	256	208	168
	一時借入金利息	0	0	375	375	375	375	375	375	375	375	375
	患者外給食材料費	1,803	1,803	1,843	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836	1,836
	雑損失・消費税	22,816	22,783	55,577	61,709	64,207	63,904	63,797	63,651	63,773	63,975	64,355
費用合計	<b>4,778,805</b>	<b>4,911,952</b>	<b>5,113,320</b>	<b>5,205,995</b>	<b>5,234,923</b>	<b>5,258,236</b>	<b>5,273,494</b>	<b>5,288,300</b>	<b>5,283,182</b>	<b>5,309,042</b>	<b>5,329,798</b>	
減価償却前損益	<b>212,685</b>	<b>464,046</b>	<b>449,262</b>	<b>632,930</b>	<b>602,386</b>	<b>577,179</b>	<b>570,537</b>	<b>543,077</b>	<b>546,285</b>	<b>518,527</b>	<b>506,480</b>	
却減 費 等 償	減価償却費	607,402	546,068	463,480	427,380	457,857	449,864	458,004	453,006	430,908	385,750	343,511
	資産減耗費	806	8,316	7,693	7,693	7,693	7,693	7,693	7,693	7,693	7,693	7,693
計	<b>608,208</b>	<b>554,384</b>	<b>471,173</b>	<b>435,073</b>	<b>465,550</b>	<b>457,557</b>	<b>465,697</b>	<b>460,699</b>	<b>438,601</b>	<b>393,443</b>	<b>351,204</b>	
経 常 損 益	<b>△ 395,523</b>	<b>△ 90,338</b>	<b>△ 21,911</b>	<b>197,857</b>	<b>136,836</b>	<b>119,622</b>	<b>104,840</b>	<b>82,378</b>	<b>107,684</b>	<b>125,084</b>	<b>155,276</b>	
損特 益別	特別利益	3,008	2,661	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
	特別損失	19,798	26,854	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	
純 損 益	<b>△ 412,313</b>	<b>△ 114,531</b>	<b>△ 50,911</b>	<b>168,857</b>	<b>107,836</b>	<b>90,622</b>	<b>75,840</b>	<b>53,378</b>	<b>78,684</b>	<b>96,084</b>	<b>126,276</b>	



## II 資本的収支

(単位：千円)

項 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収 入	企業債	47,500	257,100	498,800	374,200	77,000	113,000	141,100	143,100	128,700	104,600	74,800
	〃 (繰越)		129,600									
	他会計出資金	187,033	167,448	133,359	178,703	234,636	274,155	280,264	247,866	207,461	178,621	186,988
	補助金	1,781	1,140									
	寄附金	520										
	投資返還金											
	基金繰入金											
	計	<b>236,834</b>	<b>555,288</b>	<b>632,159</b>	<b>552,903</b>	<b>311,636</b>	<b>387,155</b>	<b>421,364</b>	<b>390,966</b>	<b>336,161</b>	<b>283,221</b>	<b>261,788</b>
支 出	建設改良費	47,783	388,102	503,919	379,210	82,016	118,070	146,190	148,159	133,710	109,657	79,869
	増改築工事	5,184		19,797								
	医療機器等購入	37,599	253,442	479,122	374,210	77,016	113,070	141,190	143,159	128,710	104,657	74,869
	〃 (繰越)		129,660									
	備品購入	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	企業債償還金	351,287	311,245	261,717	352,407	464,273	543,310	555,529	490,733	409,922	352,243	368,977
	長期借入金償還金	291,300	340,400	340,400	360,400	395,400	377,810	359,800	279,800	239,800	199,800	174,000
	投資(職員貸付金)	2,964	640	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	基金造成費	2,301	1,140									
	計	<b>695,635</b>	<b>1,041,527</b>	<b>1,112,036</b>	<b>1,098,017</b>	<b>947,689</b>	<b>1,045,190</b>	<b>1,067,519</b>	<b>924,692</b>	<b>789,432</b>	<b>667,700</b>	<b>628,846</b>
資本的収支	<b>△ 458,801</b>	<b>△ 486,239</b>	<b>△ 479,877</b>	<b>△ 545,114</b>	<b>△ 636,053</b>	<b>△ 658,035</b>	<b>△ 646,155</b>	<b>△ 533,726</b>	<b>△ 453,271</b>	<b>△ 384,479</b>	<b>△ 367,058</b>	

# 資 金 計 画

(単位：千円)

項 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
前 年 度 末 残 高	295,262	322,252	578,238	356,861	368,343	339,519	296,745	255,449	203,459	231,750	303,868
受 入 資 金	5,156,264	5,938,494	6,297,451	6,331,819	6,145,912	6,222,392	6,264,227	6,223,644	6,165,837	6,110,944	6,097,006
入 院 ・ 外 来 収 益	3,880,601	4,245,673	4,572,705	4,678,738	4,735,223	4,738,067	4,746,929	4,739,345	4,738,274	4,738,219	4,746,937
一般会計負担金・出資金	724,192	715,379	712,967	756,623	810,970	848,606	852,785	818,459	776,144	745,406	751,856
企 業 債	47,500	386,700	498,800	374,200	77,000	113,000	141,100	143,100	128,700	104,600	74,800
そ の 他 収 益	503,971	590,742	512,979	522,258	522,719	522,719	523,413	522,740	522,719	522,719	523,413
支 払 資 金	5,469,274	5,682,508	6,518,828	6,320,337	6,274,736	6,365,166	6,405,523	6,275,634	6,137,546	6,038,826	6,076,167
給 与 費	2,976,972	3,059,391	3,157,320	3,209,212	3,292,390	3,315,885	3,335,392	3,349,518	3,351,852	3,377,743	3,455,066
材 料 費	864,446	925,234	940,842	989,096	996,951	996,951	998,867	997,105	996,946	996,946	998,861
借 入 金 利 息	103,677	98,250	93,923	90,759	87,517	83,691	79,776	75,866	71,991	68,148	64,274
建設改良・器機購入	86,323	78,622	787,379	389,187	105,792	115,185	143,941	148,001	134,866	111,581	82,252
企 業 債 償 還 金	351,287	311,245	261,717	352,407	464,273	543,310	555,529	490,733	409,922	352,243	368,977
長 期 借 入 金 償 還 金	291,300	340,400	340,400	360,400	395,400	377,810	359,800	279,800	239,800	199,800	174,000
そ の 他 経 費	795,269	869,366	937,247	929,276	932,413	932,334	932,218	934,611	932,169	932,365	932,737
収 入 ・ 支 出 差 引	△ 313,010	255,986	△ 221,377	11,482	△ 128,824	△ 142,774	△ 141,296	△ 51,990	28,291	72,118	20,839
長 期 借 入 金	340,000	0	0	0	100,000	100,000	100,000	0	0	0	0
資 金 残 高	322,252	578,238	356,861	368,343	339,519	296,745	255,449	203,459	231,750	303,868	324,707

## 収支計画の算定にあたって

### 1 算定基礎

- ・平成31年4月以降の人的資源の配置から「診療機能」並び「療養環境」の充実を基本に算定する。

### 2 各項目の積算

#### (1) 収益的収支

##### ① 入院収益

- ・病床数については199床とする。
- ・看護師配置を7:1且つ病床稼働率94%を目標とする。
- ・令和元年度（平成31年度）予算を基本とし、医師確保による効果分及び平均在院日数を段階的に短縮させることにより、入院単価を令和2年度まで段階的に53,000円まで増加

##### ② 外来収益

- ・令和元年度（平成31年度）予算を基本とし、令和2年度まで段階的に13,100円まで増加

##### ③ 室料差額収益

- ・令和元年度（平成31年度）予算を基準に、病床稼働率を乗じて積算

##### ④ 一般会計負担金

- ・救急医療及び医療相談等に係る一般会計負担金を積算

##### ⑤ その他医業収益

- ・健診、人間ドック、文書料等を積算

##### ⑥ 一般会計補助金

- ・令和元年度（平成31年度）予算を基準に積算

##### ⑦ その他医業外収益

- ・レンタルテレビ使用料、駐車場使用料等（駐車場利用料40,000円/日、職員駐車場利用料6,000円/人）を積算

##### ⑧ 給与費

- ・令和元年度（平成31年度）予算（管理者、医師職38人、看護職155人、医療技術職39人、事務職18人の251人体制）から、医師は令和2年度に40人体制とし、全職員数251名体制を維持できるように採用する。
- ・給料、手当等、法定福利費は、職員数の増減に合わせて積算
- ・賃金、報酬は、令和元年度（平成31年度）予算を基準とする。

##### ⑨ 材料費

- ・令和元年度（平成31年度）予算を基準に、患者数の増減に合わせて積算

##### ⑩ 経費

- ・令和元年度（平成31年度）予算を基準に積算

##### ⑪ 研究研修費

- ・令和元年度（平成31年度）予算を基準に積算

- ⑫ 借入金利息
  - ・ 企業債及び長期借入金の償還利息及び一時借入金に係る支払利息を積算
- ⑬ 患者外給食材料費
  - ・ 令和元年度（平成 31 年度）予算を基準に積算
- ⑭ 雑損失・消費税
  - ・ 消費税等納税額で積算し，消費税の増税分を加算する。
- ⑮ 減価償却費等
  - ・ 減価償却費，棚卸資産減耗費，固定資産除却費を積算
- ⑯ 特別利益
  - ・ 過年度収益，令和元年度（平成 31 年度）予算と同額とする。
- ⑰ 特別損失
  - ・ 過年度損失，令和元年度（平成 31 年度）予算と同額とする。

## (2) 資本的収支

- ① 企業債
  - ・ 建設改良に係る支払資金の借入額を積算
- ② 他会計出資金
  - ・ 建設改良に係る一般会計からの出資金を積算
- ③ 建設改良費
  - ・ 施設建設（整備）等の投資的事業及び取得価格 10 万円以上，耐用年数 1 年以上の医療機器等の購入額を積算
- ④ 企業債償還金
  - ・ 建設改良に係る借入金の償還元金を積算（借入時期・金額・利率を実績へ修正）
- ⑤ 長期借入金償還金
  - ・ 一般会計借入金の償還元金を積算
- ⑥ 投資（職員貸付金）
  - ・ 令和元年度（平成 31 年度）予算と同額とする。

## 市立芦屋病院医療機器整備計画

(単位：円)

年 度	整備総額
平成29年度	42,599,368
平成30年度	388,102,087
令和元年度	484,121,770
令和2年度	379,210,000
令和3年度	82,016,200
令和4年度	118,069,800
令和5年度	146,190,200
令和6年度	148,159,229
令和7年度	133,710,484
令和8年度	109,657,000
令和9年度	79,869,000
計	2,111,705,138

医療機器等明細 (取得価格300万円以上, 税抜)

(単位：円)

名 称	取得年度	耐用年数	購入価格
内視鏡システム及び内視鏡用超音波観測装置	新規取得	6	18,368,800
内視鏡用光源装置・ビデオ軟性胃十二指腸鏡	新規取得	6	7,300,000
パワープロⅡミニドライバース式	新規取得	5	3,020,000
細隙灯顕微鏡システム装置	新規取得	6	5,496,000
内視鏡情報管理システム	新規取得	5	21,000,000
物質併用電気手術器	新規取得	5	6,250,000
磁気共鳴画像診断装置 (MR I 装置)	新規取得	6	117,500,000
X線乳房撮影装置 (マンモグラフィ装置)	新規取得	6	38,000,000
放射線情報管理システム	新規取得	5	75,000,000
超音波診断装置	新規取得	6	4,300,000
電子カルテ用端末	新規取得	5	5,707,400
院内情報ネットワーク	新規取得	5	40,914,700
直流電源装置用蓄電池 (非常用バッテリー)	新規取得	6	4,000,000
眼科用超音波診断装置	H03	6	4,300,000
スペキュラーマイクロスコープ	H07	8	3,160,000
マイクロ波手術器セット	H10	6	5,101,000
ビデオエンドスコープシステム	H11	6	4,500,000
血液ガス分析装置	H11	6	5,600,000
内視鏡システム	H11	5	4,000,000
カラードプラ超音波診断装置	H13	6	17,000,000
プローブ用超音波観測装置	H13	6	3,520,000
耳鼻科用アルゴンプラズマ高周波手術装置	H13	5	3,500,000
電子内視鏡ビデオヒストロスコープ	H14	6	4,300,000
腹腔鏡手術用カメラ	H14	6	2,790,000
ベッセルシーリングシステム	H15	5	3,250,000
関節鏡セット	H15	5	3,200,000

名 称	取得年度	耐用年数	購入価格
大腸内視鏡スコープ	H16	6	3,080,000
乳房撮影装置	H16	6	9,300,000
自動視野計	H17	5	4,480,000
X線一般撮影装置	H18	6	8,500,000
磁気共鳴画像検査装置 (MR I)	H18	6	196,380,000
スリットランプ	H19	8	4,758,000
眼底カメラシステム	H19	8	8,370,000
X線一般撮影装置	H19	6	10,450,000
X線血管造影装置 (アンギオ)	H19	4	46,434,000
コンピューター断層撮影装置 (CT)	H19	6	140,778,000
汎用超音波診断装置	H20	6	4,250,000
腹腔鏡システム	H20	5	5,750,000
超音波診断装置	H20	8	5,600,000
全身麻酔装置	H20	6	4,300,000
臨床化学自動分析装置	H20	6	16,000,000
全自動免疫測定装置	H20	6	22,900,000
密閉式自動固定包埋装置	H20	5	4,000,000
生化学自動分析装置	H20	6	2,500,000
内視鏡システム	H20	6	11,000,000
大腸内視鏡スコープ	H20	6	3,000,000
調剤支援システム	H20	6	31,592,000
患者監視モニター	H20	6	3,850,000
救急外来血液自動分析装置	H20	6	3,000,000
自動採取管準備システム	H20	6	41,000,000
総合臨床検査システム	H20	6	57,000,000
超音波診断装置	H21	6	7,610,000
内視鏡システム	H21	6	5,140,000
マンモ用コイル	H21	6	3,000,000
赤外線カメラシステム	H21	6	5,000,000
患者監視モニター	H21	6	3,150,000
電話交換機	H21	6	9,888,000
超音波診断装置	H21	6	4,250,000
DPC分析ソフト	H22	6	4,300,000
凍結組織切片作製装置	H22	6	4,000,000
コンピューター処理放射線撮影装置	H22	6	13,000,000
高周波手術装置	H22	6	4,150,000
バーチャルスライドシステム	H22	6	6,650,000
高周波手術装置	H23	5	3,640,000
運動負荷心電図	H23	6	3,900,000
ホルター心電図解析装置	H23	6	15,000,000
電子カルテシステム	H24	5	429,523,810
脳波計	H24	6	3,640,000
血液成分分離装置	H24	4	12,800,000
温冷配膳車	H24	5	10,820,000
小腸用ダブルバルーン内視鏡	H24	5	4,657,000
大腸ビデオスコープ	H24	6	3,410,000
大腸ビデオスコープ	H24	6	3,410,000
大腸ビデオスコープ	H24	6	3,410,000
上部汎用ビデオスコープ	H24	6	3,664,000

名 称	取得年度	耐用年数	購入価格
上部汎用ビデオスコープ	H24	6	3,664,000
上部汎用ビデオスコープ	H24	6	3,150,000
内視鏡システム	H24	6	15,590,700
インバータ式コードレス移動型X線装置	H24	4	3,380,000
超音波画像診断装置	H24	6	5,100,000
病室モニタシステム	H24	6	37,820,000
クリーン蒸気式高圧蒸気滅菌装置	H24	4	14,450,000
クリーン蒸気式高圧蒸気滅菌装置	H24	4	14,450,000
ウォッシャーディスインフェクター	H24	4	9,306,000
ウォッシャーディスインフェクター	H24	4	9,306,000
RO水製造装置	H24	6	9,400,000
洗濯機	H24	6	3,646,000
子宮鏡	H24	5	3,040,000
超音波白内障手術装置	H24	5	9,720,000
血液ガス分析装置	H24	4	3,400,000
全自動尿検査統合システム	H24	5	12,000,000
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（シーリングペンダント・麻酔用）	H24	5	3,469,050
手術室機器（超音波手術装置）	H24	5	10,470,664
手術室機器（内視鏡システム）	H24	5	9,943,632
手術室機器（手術台）	H24	5	9,371,569
手術室機器（プラズマ滅菌装置）	H24	5	13,348,140
手術室機器（麻酔器）	H24	5	6,287,806
手術室機器（麻酔器）	H24	5	6,287,806
手術室機器（麻酔器）	H24	5	6,287,806
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,520,389
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,520,389
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,667,072
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,667,072
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,960,438
手術室機器（無影灯）	H24	5	3,960,438
手術室機器（無影灯）	H24	5	4,107,120
手術室機器（無影灯）	H24	5	4,107,120
心電計	H24	6	3,450,000
心電計	H24	6	3,450,000
心電計	H24	6	3,450,000
院外パソコン一式	H25	5	6,950,000
財務会計システム	H25	6	8,470,000
人給・給与システム	H25	6	9,960,000
骨密度測定装置	H26	6	7,000,000
大腸カプセルシステム	H26	6	3,650,000
調剤システム	H26	5	3,944,000
超音波画像診断装置	H26	6	12,500,000
移動型X線撮影装置	H27	6	3,560,000
感染管理対策システム	H27	5	17,000,000
シラス HD-OCT	H27	6	5,280,000
超音波診断装置	H27	6	4,300,000

名 称	取得年度	耐用年数	購入価格
超音波診断装置	H28	6	3,300,000
放射線画像サーバー拡張	H28	5	3,500,000
X線透視診断装置	H28	6	24,700,000
画像解析ワークステーション	H28	5	15,000,000
全自動血液凝固測定装置	H28	6	3,240,000
X線テレビシステム	H29	5	6,300,000
血糖検査システム	H29	6	7,240,000
生化学自動分析装置	H29	6	3,730,000
超音波画像診断装置	H29	6	3,200,000



# 資料 3

## 施設整備計画

(単位：千円)

施設名称	建設年度	耐用年数	現況	整備費用				
				平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
外来棟外壁改良工事	S62	40年	外来棟は建築後26年を経過しており、外壁のタイルが劣化から剥がれ落ちる事故が発生しており改修が必要	50,652				
院内保育所増設工事	H20	-	院内保育所の定員12人のところ、定員超過の16～17人の状況であり、早急の増設が必要	10,000				
外来棟高圧電気設備	S62	25年	現状は、部品交換等メンテナンスをしているが、耐用年数がきているので改修が必要	30,000				
外来棟エレベーター	S62	25年	現状は、部品交換等メンテナンスをしているが、耐用年数がきているので改修が必要			5,184		
管理棟吸収式冷温水発生機	H11	15年	23年度に一部消耗部品等の交換オーバーホール完了					19,797

# 市立芦屋病院 新改革プラン進捗状況

# 資料 4

達成度【計画以上=◎, 計画通り=○, 計画未達=×】

## 1 経営指標に係る数値目標に関すること

項目	単位	29年度			30年度								自己評価	評価委員会	
		上半期実績(A)	下半期実績(B)	年間実績(C)	年間目標(D)	上半期実績(E)	下半期実績(F)	年間実績(G)	前年との差 G-C	前年との比率 G/C	目標到達差 G-D	目標達成率		達成度	達成度
(1) 経常収支比率 <sup>※1</sup>	%	100.8	86.1	92.0	94.9	108.4	90.1	97.3	5.3	105.8	2.4	102.5	○	○	
(2) 医業収支比率 <sup>※2</sup>	%	95.7	81.4	88.8	90.6	103.3	84.0	93.8	5.0	105.6	3.2	103.5	○	○	
(3) 入院単価	円	46,688	46,136	46,399	49,000	47,678	48,326	47,994	1,595	103.4	△ 1,006	97.9	×	×	入院単価, 外来単価共に目標にわずかに届かなかったものの、前年度に比べ入院単価は大幅に増加しており、評価します。
(4) 外来単価	円	12,467	12,731	12,595	12,700	12,754	12,598	12,670	75	100.6	△ 30	99.8	×	×	
(5) 病床利用率 <sup>※3</sup>	%	76.6	83.4	80.0	83.2	86.2	83.5	84.9	4.9	106.1	1.7	102.0	○	○	
(6) 病床稼働率 <sup>※4</sup>	%	82.7	89.5	86.1	89.0	92.3	89.5	90.9	4.8	105.6	1.9	102.1	○	○	
(7) 1日入院患者数	人	164.5	178.1	171.3	177.1	183.7	178.2	180.9	9.6	105.6	3.8	102.1	○	○	
(8) 1日外来患者数	人	341.0	347.0	344.0	350.0	339.5	362.3	350.7	6.7	101.9	0.7	100.2	○	○	耳鼻科や眼科等非常勤医師の外来診察も非常に質の高い医療を提供しています。今後も広報活動を強化し、患者集約に努めてください。
(9) 人件費比率 <sup>※5</sup>	%	55.6	74.6	65.7	64.3	52.3	72.0	62.5	△ 3.2	95.1	△ 1.8	102.8	○	○	
(10) 材料費比率 <sup>※6</sup>	%	18.6	17.9	17.6	18.4	18.1	17.7	17.2	△ 0.4	97.7	△ 1.2	106.5	○	○	
(11) 医師数	人	33	35	35	35	36	36	36	1	102.9	1	102.9	○	○	
(12) 看護師数	人	144	142	142	155	149	142	142	0	100.0	△ 13	91.6	×	×	引き続き看護師確保に努めてください。

※1 経常収支比率：(医業収益+医業外収益)÷(医業費用+医業外費用)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出

※2 医業収支比率：(医業収益÷医業費用)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出

※3 病床利用率：24時現在病院に在院中の延患者数を年間病床数で除した率

※4 病床稼働率：24時現在病院に在院中の延患者数に退院患者数を加えた数を年間病床数で除した数

※5 人件費比率：(給与費÷医業収益)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出。実績値が目標値より少ない方が良い指標である

※6 材料費比率：(材料費÷医業収益)×100

目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出。実績値が目標値より少ない方が良い指標である

(11)医師数, (12)看護師数の上半期実績は9月末時点, 下半期及び年間実績は3月末時点の数値である

### 【平成30年度の状況】

- (1) 経常損益は、148,999千円の経常損失となり、経常収支比率は97.3%で目標を達成した。前年度と比較すると、5.3ポイントの上昇となる。これは、経常費用が101,868千円増加したものの、経常収益が381,519千円増加し、収支において279,651千円改善されたことが要因である。
- (2) 医業損益は、327,353千円の医業損失となり、医業収支比率は93.8%で目標を達成した。前年度と比較すると、5.0ポイントの上昇となる。これは、給与費や材料費など医業費用全体で81,723千円の増加があったものの、入院収益で268,427千円、外来収益で27,002千円増加するなど医業収益全体で331,799千円増加し、収支において250,076千円改善されたことが要因である。
- (3) 入院単価は、前年度と比較すると、1,595円増加となっているものの、目標は未達成である。前年度より増加した要因は、DPCにおける診療単価の算定基礎となる医療機関別係数<sup>※7</sup>が0.0496の増加、血液・腫瘍内科の入院単価の高い白血病、悪性リンパ腫等の化学療法患者及び整形外科の人工関節の手術患者並びに緩和ケア内科の患者数増加が要因である。
- (4) 外来単価は、前年度と比較すると、75円増加となっているものの、目標は未達成である。前年度より増加した要因は、神経内科において、認知症患者の薬剤、CT・MRI等の検査、リハビリテーションの増加、並びに循環器内科において、心不全患者の心臓超音波検査が増加したことが要因である。
- (5) (6) 病床利用率(稼働率)は、前年度と比較する、4.9(4.8)ポイント上昇し、目標を達成した。平均在院日数の長い悪性リンパ腫、圧迫骨折及び緩和ケアの患者が増加したことが要因である。4階東病棟の病床稼働率は、前年度と比較すると21.3ポイントと大幅に上昇した。高度急性期病院等からの紹介が増えたことが要因である。
- (7) 1日平均患者数(入院)は、前年度と比較すると、9.6人の増加となり、目標を達成した。血液・腫瘍内科において長期入院となる血液疾患及び緩和ケア内科の患者が増加したことが要因である。
- (8) 1日平均患者数(外来)は、前年度と比較すると、6.7人の増加となり、目標を達成した。神経内科の脳疾患予防外来の患者数が増加したことが要因である。
- (9) 人件費比率は、前年度と比較すると、3.2ポイントの低下となり、目標を達成した。これは、職員数増加に伴う給料、救急体制強化に伴う宿日直手当などの給与費が57,559千円増加したものの、医業収益において、入院収益が268,427千円、外来収益が27,002千円増加したことが要因である。
- (10) 材料費比率は、前年度と比較すると、0.4ポイントの低下となり、目標を達成した。これは、入院患者数増加に伴う材料費が39,360千円増加したものの、医業収益において、入院収益が268,427千円、外来収益が27,002千円増加したことが要因である。
- (11) 医師数は、平成30年度に4名採用、3名退職のため合計で1名増加し、目標を達成した。前年度と比較すると、医師数の増加した診療科は麻酔科である。
- (12) 看護師数は、平成30年度に17名を採用したものの、昨年度末に5名退職、平成30年度途中に12名退職したことから、人数の増減は無く、目標は未達成となった。

※7 医療機関別係数：DPC（診断群分類別包括評価）における包括点数の算定式を構成する1項目で、病院の機能や前年度実績を評価したもの。

## 市立芦屋病院 新改革プラン進捗状況

達成度【計画以上＝◎，計画通り＝○，計画未済＝×】

### 2 医療機能等に係る数値目標に関すること

項目	単位	29年度			30年度								自己評価	評価委員会	
		上半期 実績(A)	下半期 実績(B)	年間 実績(C)	年間 目標(D)	上半期 実績(E)	下半期 実績(F)	年間 実績(G)	前年との差 G-C	前年との比率 G/C	目標到達差 G-D	目標達成率		達成度	達成度
(1) 患者満足度(外来)	%	/	96.1	96.1	98.0	/	97.0	97.0	0.9	100.9	△ 1.0	99.0	×	○	年間目標に1%届かなかったが、達成と見なします。
患者満足度(入院)	%	/	100.0	100.0	98.0	/	100.0	100.0	0.0	100.0	2.0	102.0	○	○	
(2) クリティカルパス適用率	%	42.9	47.3	45.1	46.0	49.0	50.8	49.9	4.8	110.6	3.9	108.5	○	○	
(3) 紹介率	%	42.3	40.9	41.6	50.0	42.2	39.1	40.6	△ 1.0	97.6	△ 9.4	81.2	×	×	開業医訪問，広報活動を強化し改善に努めてください。
(4) 逆紹介率	%	77.9	76.0	76.9	70.0	82.1	77.2	79.6	2.7	103.5	9.6	113.7	○	○	
(5) 在宅復帰率	%	94.7	96.3	96.3	90.0	95.8	95.3	95.3	△ 1.0	99.0	5.3	105.9	○	○	
(6) 救急受入患者数	件	2,064	2,291	4,355	4,400 (2,200)	2,438	2,699	5,137	782	118.0	737	116.8	○	○	外科系救急の取組を評価します。令和2年度の収支目標達成に向けて救急受入，手術件数の増加に努めてください。
(7) 手術件数	件	1,156	1,205	2,361	2,650 (1,325)	1,237	1,241	2,478	117	105.0	△ 172	93.5	×	×	
(8) リハビリテーション件数	件	11,762	14,156	25,918	35,000 (17,500)	18,412	19,344	37,756	11,838	145.7	2,756	107.9	○	○	
(9) 臨床研修医数	人	10	9	9	10	10	10	10	1	111.1	0	100.0	○	○	
(10) 専門・認定看護師	人	13	13	13	13	13	13	13	0	100.0	0	100.0	○	○	
(11) 後発医薬品使用率	%	85.0	91.9	88.7	85.0	92.1	91.8	91.9	3.2	103.6	6.9	108.1	○	○	
(12) 人件費比率 <sup>※1</sup> (委託料込)	%	64.0	82.5	73.3	71.9	59.9	79.7	69.6	△ 3.7	95.0	△ 2.3	103.2	○	○	
(13) 平均在院日数 (緩和病棟除く)	日	11.8	12.8	12.3	12.5	13.0	12.9	12.9	0.6	104.9	-	-	×	×	平均在院日数と病床稼働率の関係を考慮しながら，適切な運営に努めてください。

※1 人件費比率：(給与費+人的委託料)÷医療収益)×100 目標数値及び上半期・下半期の実績値は税込で算出。実績値が目標値より少ない方が良い指標である

(6)救急患者数，(7)手術件数，(8)リハビリテーション件数の年間目標( )内の数値は半期の目標値

(9)臨床研修医数，(10)専門・認定看護師数の上半期実績は9月末時点，下半期及び年間実績は3月末時点の数値である

(11)薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量で算出している

## 【平成30年度の状況】

- (1) 患者満足度調査の総合評価「当院の全体的な印象について」の質問に対し、外来は前年度より「やや満足」が増加し、満足度は0.9ポイント上昇したものの、目標未達成となった。入院では「不満」「やや不満」への回答が0件であり、満足度100%を維持し、目標を達成した。
- (2) クリティカルパス適用率は、前年度と比較すると、4.8ポイント上昇し、目標を達成した。血液・腫瘍内科においてはパスを新たに作成し、小児科においては既存のパスを積極的に使用したことが要因である。
- (3) 紹介率は、前年度と比較すると、1.0ポイント低下し、目標未達成となった。当院への紹介件数は増加しているものの、初診患者数も増加していることから紹介率の向上に至らなかった。
- (4) 逆紹介率は、前年度と比較すると、2.7ポイント上昇し、目標を達成した。近隣開業医を紹介する「かかりつけ紹介カード」の拡充、返書チェックの強化、開業医訪問により逆紹介推進を図ったことが要因である。
- (5) 在宅復帰率は、前年度と比較すると、1.0ポイント低下したが目標を達成した。目標の90%並びに急性期一般入院料1(旧:7対1入院基本料)の要件である80%も十分に達成している。一般病棟からの退院患者の95.3%が自宅及び特別養護老人ホームなどの居住系介護施設へ退院しており、在宅復帰率の計算上対象外となる一般病棟等への転院は少数であった。地域連携室において入院早期から退院困難な患者を抽出し、退院支援を実施するなど退院調整に取り組んでいることが要因である。
- (6) 救急患者数は、前年度と比較すると、782人の増加となり、目標を達成した。「断らない救急」の取組及び平成30年4月から外科系救急の実施日を週3日に拡大し、同年7月から24時間365日に拡大したことが要因である。
- (7) 手術件数は、前年度と比較すると、117件増加となっているものの、目標は未達成である。産婦人科の腹腔鏡下手術、整形外科の骨折観血的手術は増加しているものの、眼科の白内障手術が減少していることが要因である。
- (8) リハビリテーション件数は、前年度と比較すると11,838件増加となり、目標を達成した。4月から理学療法士2名を新規採用したことや、廃用症候群リハビリテーション及び外来における呼吸器リハビリテーションの提供を強化したことが要因である。
- (9) 前年度下半期に、後期研修医1名を正規職員として採用したことにより、臨床研修医の人数は減少したが、今年度当初に新規採用したことで、初期研修医6名、後期研修医4名となり、目標を達成した。
- (10) 前年度末に専門看護師が1名退職したが、今年度上半期に新たに1名が皮膚・排泄ケア認定看護師資格を取得したため、人数は変わらず、目標を達成した。
- (11) 後発医薬品使用率は、前年度と比較すると、3.2ポイント上昇し、目標を達成した。従来より積極的に後発医薬品の転換に取り組んでいることが要因である。
- (12) 人件費比率(委託料込)は、前年度と比較すると、3.7ポイント低下し、目標を達成した。これは、給与費が57,559千円、人的委託料が2,294千円増加したものの、医業収益において、入院収益が268,427千円、外来収益が27,002千円増加したことが要因である。
- (13) 平均在院日数(緩和除く)は、前年度と比較すると0.6日延長となり、目標は未達成である。平均在院日数の長い悪性リンパ腫や圧迫骨折が増加したことが主な要因である。

市立芦屋病院新改革プラン進捗状況(年度別推移)

1 経営指標に係る数値目標に関すること

項目	単位	平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
(1) 経常収支比率	%	91.9	94.6	102.9%	92.9	92.0	99.0%	94.9	97.3	102.5%	99.6		0.0%	103.5		0.0%
(2) 医業収支比率	%	87.1	90.9	104.4%	88.6	88.8	100.2%	90.6	93.8	103.5%	95.0		0.0%	99.1		0.0%
(3) 入院単価	円	44,884	45,290	100.9%	46,000	46,399	100.9%	49,000	47,994	97.9%	51,000		0.0%	53,000		0.0%
(4) 外来単価	円	12,374	12,426	100.4%	12,500	12,595	100.8%	12,700	12,670	99.8%	12,900		0.0%	13,100		0.0%
(5) 病床利用率(※)	%	81.9	81.2	99.1%	82.2	80.0	97.3%	83.2	84.9	102.0%	85.1		0.0%	87.9		0.0%
(6) 病床稼働率(※)	%	87.6	87.0	99.3%	87.9	86.1	98.0%	89.0	90.9	102.1%	91.0		0.0%	94.0		0.0%
(7) 1日入院患者数	人	174.3	173.1	99.3%	175.0	171.3	97.9%	177.1	180.9	102.1%	181.1		0.0%	187.1		0.0%
(8) 1日外来患者数	人	339.4	338.9	99.9%	350.0	344.0	98.3%	350.0	350.7	100.2%	350.0		0.0%	350.0		0.0%
(9) 人件費比率	%	64.4	63.0	102.2%	63.9	65.7	97.2%	64.3	62.5	102.8%	62.8		0.0%	60.2		0.0%
(10) 材料費比率	%	19.4	18.1	106.7%	18.6	17.6	105.4%	18.4	17.2	106.5%	17.5		0.0%	17.6		0.0%
(11) 医師数	人	31	33	106.5%	34	35	102.9%	35	36	102.9%	37		0.0%	40		0.0%
(12) 看護師数	人	151	148	98.0%	150	142	94.7%	155	142	91.6%	155		0.0%	155		0.0%

2 医療機能等に係る数値目標に関すること

項目	単位	平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
(1) 患者満足度	(外来)	97.0	97.0	100.0%	98.0	96.1	98.1%	98.0	97.0	99.0%	98.0		0.0%	98.0		0.0%
	(入院)	97.0	99.0	102.1%	98.0	100.0	102.0%	98.0	100.0	102.0%	98.0		0.0%	98.0		0.0%
(2) クリティカルパス適用率	%	42.0	39.4	93.8%	44.0	45.1	102.5%	46.0	49.9	108.5%	48.0		0.0%	50.0		0.0%
(3) 紹介率	%	50.0	41.0	82.0%	50.0	41.6	83.2%	50.0	40.6	81.2%	50.0		0.0%	50.0		0.0%
(4) 逆紹介率	%	70.0	55.1	78.7%	70.0	76.9	109.9%	70.0	79.6	113.7%	70.0		0.0%	70.0		0.0%
(5) 在宅復帰率	%	90.0	95.8	106.4%	90.0	96.3	107.0%	90.0	95.3	105.9%	90.0		0.0%	90.0		0.0%
(6) 救急受入患者数	件	4,100	4,101	100.0%	4,300	4,355	101.3%	4,400	5,137	116.8%	4,500		0.0%	4,700		0.0%
(7) 手術件数	件	2,300	2,123	92.3%	2,500	2,361	94.4%	2,650	2,478	93.5%	2,800		0.0%	3,000		0.0%
(8) リハビリテーション件数	件	23,000	22,378	97.3%	32,000	25,918	81.0%	35,000	37,756	107.9%	36,000		0.0%	37,000		0.0%
(9) 臨床研修医数	人	5	6	120.0%	9	9	100.0%	10	10	100.0%	11		0.0%	12		0.0%
(10) 専門・認定看護師数	人	8	8	100.0%	12	13	108.3%	13	13	100.0%	13		0.0%	13		0.0%
(11) 後発医薬品利用率	%	60.0	69.5	115.8%	70.0	88.7	126.7%	85.0	91.9	108.1%	85.0		0.0%	85.0		0.0%
(12) 人件費比率(委託料込)	%	72.3	70.6	102.4%	71.8	73.3	97.9%	71.9	69.6	103.2%	70.2		0.0%	67.3		0.0%
(13) 平均在院日数(緩和病棟除く)	日	13.0	13.3	—	13.0	12.3	—	12.5	12.9	—	12.5		—	12.0		—

## 【平成30年度の主な取組】

## I 当院の目指すべき方向

取組項目	計画本文	取組内容・効果等
5 再編・ネットワーク化 (P. 8)	「h-Anshin むこねっと」に参加し、逆紹介の推進及び各種連携パスへの参加など地域医療の効率化を目指す。なお、当院は神戸圏域とも隣接しており、当院独自の IT ネットワークである「芦っこメディカルリンク」を活用し、患者の診療情報を共有するなど連携強化を図る。 (※計画本文一部割愛)	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の逆紹介時等に積極的に「h-Anshin むこねっとシステム」, 「芦っこメディカルリンク」を活用し、連携強化を図った。</li> </ul> h-Anshin むこねっとシステム利用件数 30年度 359件 (前年比85件増加) 芦っこメディカルリンク利用件数 30年度 26件 (前年比12件増加)

## II 市民に提供する診療機能の向上に向けての取組

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
1 診療事業 (3) 質の高い医療の提供 (P. 10)	<b>⑤ 超高齢社会への対応</b> 高齢者に多くみられる疾患(がん, 骨そしょう症, 肺炎, 認知症, 循環器疾患等)に対する診療内容の充実を図るとともに在宅医療について研究する。 各種老健施設及び地域の在宅医療を担う開業医の後方支援病院として連携強化を図り, 在宅患者の救急受入れを積極的に行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月より脳神経センター(脳疾患予防外来)を開設し, 急増する認知症疾患や神経変性疾患, 成人てんかんの診療に対応。 30年度 延べ984名受診</li> <li>神経内科医師の増員により嚥下栄養外来におけるVE(嚥下内視鏡)検査の再開など診療内容の充実を図る。</li> <li>嚥下栄養外来受診者数の増加 30年度 延べ141名受診(前年比104件増加)</li> <li>理学療法士2名増員による各種リハビリテーション提供件数の増加 30年度 37,756件(前年比11,838件増加)</li> <li>高齢リハビリ外来, 膝痛相談外来の継続実施</li> <li>骨粗鬆症外来受診者数の増加 30年度 延べ1,045名受診(前年比93件増加)</li> </ul>

<p>1 診療事業 (4) 病院に期待される機能の発揮 (P. 11～12)</p>	<p>① 地域医療への貢献 <u>1) 紹介率・逆紹介率向上への取組</u></p> <p>地域において必要とされる医療を的確に実施するため、地域連携クリティカルパス実施件数の増加や紹介率・逆紹介率の向上など地域医療機関との連携強化を図るとともに、地域医療の向上に積極的に取り組む。</p> <p>紹介率、逆紹介率については、地域医療支援病院の承認基準である紹介率 50%、逆紹介率 70%を目標とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介率については 40.6%であり、前年より 1.0 ポイント低下し、目標未達成となった。しかし、当院への紹介件数は 6,800 件であり、前年に比べ 146 件の増加となった。主に内科、整形外科への紹介が増加となった。</li> <li>逆紹介率は 79.6%と前年に比べ 2.7 ポイント上昇し、目標を達成した。</li> </ul>
	<p>① 地域医療への貢献 <u>2) 在宅復帰への取組</u></p> <p>地域のかかりつけ医、連携病院、介護老健施設及び地域包括支援センター等と連携強化を進めるとともに、入院患者の生活状況等を早期に把握するため、地域連携室に退院支援に精通した看護師、社会福祉士を配置し、患者一人一人に最適な在宅ケアが提供できるよう取組を行う (※計画本文一部割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携室において入院早期より退院困難な患者の抽出を実施。30 年度は全退院患者の 36.9%に介入支援を行った。転帰先は概ね在宅、施設への再入所であり、在宅医療を担う開業医や訪問看護師、ケアマネージャーとの連携に引き続き努めた。</li> <li>在宅復帰率は 95.3%であり、目標値の 90%並びに急性期一般入院料 1 (旧：7 対 1 入院基本料)の要件である 80%を達成した。</li> </ul>
	<p>② 兵庫県保健医療計画における 5 事業への取組 <u>1) 救急医療</u></p> <p>引き続き内科二次救急体制を 24 時間 365 日堅持し、小児救急体制、外科系救急体制及び消化器内視鏡救急体制の拡充を図る。特に外科系救急においては、外科の体制の整備を行い、救急受入日の拡充等を進め、最終的には 24 時間 365 日の実施を目指す。また、救急車搬送において、市外へ流出している救急患者を当院にて受け入れていく。 (※計画本文一部割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 月より外科系救急の実施日を拡大し、7 月から 24 時間 365 日体制による救急診療を開始する。 30 年度外科系救急患者数 1,137 件 (前年比 653 件増加)</li> <li>開業医、施設等からの依頼による救急外来受診者数の増加 30 年度 1,112 件 (前年比 102 件増加)</li> </ul>



<p>1 診療事業</p> <p>(4) 病院に期待される機能の発揮 (P.13～14)</p>	<p>③ 兵庫県保健医療計画における5疾病への取組</p> <p><u>1) がん対策の強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診・人間ドックの充実</li> <li>・がん予防診療（ピロリ菌外来・肝炎ウイルス対策）</li> <li>・低侵襲手術（上部・下部消化管内視鏡下手術，腹腔鏡下手術，胸腔鏡下手術）の拡充</li> <li>・外来・入院化学療法</li> <li>・がん緩和ケア</li> <li>・がんに関する知識の啓発</li> <li>・兵庫県がん地域連携パスの活用</li> <li>・がん診療連携協議会幹事会への参加，各種事業への協力，地域診療連携の推進</li> <li>・他の医療機関との連携による放射線治療の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア内科への紹介増加，病棟稼働率向上 30年度緩和ケア内科紹介件数 339件（前年比78件増加） 30年度緩和ケア病棟稼働率 91.1%（前年比21.3ポイント上昇） ※特に，難治性がん疼痛の症状改善を目的とした紹介が増加。種類豊富なオピオイドを適切に処方できる薬剤師が在籍していることや，痛み止め調整入院の実施などを行っていることが地域に浸透し，特色ある緩和ケアの提供が行えている。</li> <li>・入院化学療法症例件数の増加 30年度 342件（前年比76件増加）</li> <li>・3D撮影に対応したX線乳房撮影装置（マンモグラフィ）の導入（更新）</li> <li>・緩和ケアチーム加算の算定件数増加 30年度 2,087件（前年比1,769件増加）</li> <li>・医療従事者向けの緩和ケア研修会を開催（平成30年7月1日）31名参加</li> <li>・地域の医療者との交流を図り，更なる緩和ケア普及，在宅医療の推進を目的に医師会と「芦屋緩和医療連絡協議会」を設立。</li> <li>・兵庫県がん地域連携パスの運用を開始</li> <li>・がんフォーラム開催（平成30年9月1日）250名参加</li> <li>・人間ドック受診者数の増加 30年度 1,234件（前年比39件増加）</li> </ul>
	<p><u>5) 認知症合併患者への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症看護認定看護師，認知症ケア専門士の活用</li> <li>・医師，認知症看護認定看護師，精神保健福祉士等により構成された認知症ケアチームの設置</li> <li>・芦屋市認知症初期集中支援チームとの連携による積極的な救急患者受入</li> <li>・外来診療における軽度認知障害（MCI）の早期発見</li> <li>・芦屋市高齢介護課，地域包括支援センターとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月より脳神経センター（脳疾患予防外来）を開設し，急増する認知症疾患や神経変性疾患，成人てんかんの診療に対応。【再掲】 30年度 延べ984名受診</li> <li>・磁気共鳴断層撮影装置（MRI）を更新</li> <li>・あしやホスピタルフェスタのミニ公開講座にて認知症に関する講演を実施</li> <li>・CATVで「神経内科（脳神経センター）特集」の放送を実施。</li> </ul>

<p>1 診療事業 (4) 病院に期待される機能の発揮 (P. 14～15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症，早期診断に関する知識の啓発</li> </ul>	
	<p>④ 外科系手術の拡充</p> <p>外科系救急の体制整備，外科系疾患の患者受入を強化することで外科系手術件数の増加を目指す。</p> <p>また，効率的な手術室稼働が出来るよう麻酔科医の増員及び手術室等のスタッフの充実を図り，外科系手術の増加を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総手術件数が増加し，特に産婦人科，整形外科において増加となった。</li> <li>30年度 2,478件（前年比117件増加）</li> <li>・ 麻酔科医1名増員（5月）</li> </ul>
	<p>⑤ 産婦人科医療の拡充</p> <p>日本産科婦人科内視鏡学会の認定研修施設として，専門的知識が必要な女性泌尿器疾患（骨盤臓器脱や尿失禁など），高度な技術を必要とする腹腔鏡下手術に注力するとともに，婦人科腫瘍及び更年期婦人疾患にも対応していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 婦人科系手術件数の増加</li> <li>30年度 510件（前年比72件増加）</li> <li>・ 甲南女子大学理学療法学科との共同実施による骨盤底筋体操，市民講座を実施</li> </ul>
	<p>⑦ リハビリテーションの拡充</p> <p>理学療法士，作業療法士及び言語聴覚士による総合的なリハビリテーションが提供できるよう体制を整備するとともに，今後，増加が予想される脳卒中に伴う機能回復リハビリテーション，がん患者に対するリハビリテーション及び高齢者リハビリテーションの受入れを積極的に行うため，人員確保を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理学療法士2名増員による各種リハビリテーション提供件数の増加【再掲】</li> <li>30年度 37,756件（前年比11,838件増加）</li> <li>・ 高齢リハビリ外来，膝痛相談外来の継続実施【再掲】</li> </ul>
<p>3 教育研修事業 (1) 質の高い医療従事者の育成・確保 (P. 16)</p>	<p>① 質の高い医師の育成</p> <p>初期臨床研修プログラムに基づき，質の高い研修を実施して良質な医師の育成を行う。 (※計画本文一部割愛)</p>	

<p>3 教育研修事業 (1) 質の高い医療従事者の育成・確保 (P.16)</p>	<p>② <b>質の高い看護師の育成</b> 全看護師の技術及び意識向上に資するよう、専門看護師、認定看護師等の採用及び資格取得を推進し、看護の質の向上を図る。 (※計画本文一部割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1名の看護師が新たに皮膚・排泄ケア認定看護師資格を取得。</li> </ul>
<p>3 教育研修事業 (2) 各種検診業務の充実・市民への疾病予防の啓発 (P.17)</p>	<p>疾病の早期発見、早期治療を促進するため、人間ドック、各種がん検診、特定健診等の受診者数増加に向けてホームページ等の広報強化に取り組む。 また、地域住民を対象とした「がんフォーラム」や公開講座、糖尿病教室などを定期的に開催し、疾病予防の啓発活動に積極的に貢献する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間ドック受診者数の増加【再掲】 30年度 1,234件 (前年比39件増加)</li> <li>特定検診受診者数の増加 30年度 649件 (前年比38件増加)</li> <li>休日がん検診の実施 10月14日実施 延べ30名受診 2月17日実施 延べ56名受診</li> <li>がんフォーラム開催 (平成30年9月1日) 250名参加【再掲】</li> <li>公開講座、糖尿病教室の継続実施【再掲】</li> </ul>

### Ⅲ 業務運営効率化への取組

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
<p>1 効果的な業務運営体制 (2) 人材確保 (P.18)</p>	<p>医療を取り巻く状況の変化に応じ柔軟に対応できるよう、任期付職員の活用も含め、幅広い年齢層から良質な人材の確保に取り組む。確保する職種については、医療需要に応じて柔軟に対応する。医師の確保については、医師事務作業補助者による積極的な事務負担軽減や学会参加支援等の労働環境の充実により離職防止を図る。また、看護師については、新人看護師への教育の充実に努めるとともに、認定看護師等の資格取得支援などにより当院でスキルアップできることを通して仕事のやりがいを高め、離職防止を図る。</p>	<p>【医師職】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>麻酔科医1名増員(5月)【再掲】</li> </ul> <p>【コメディカル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法士2名増員(4月)【再掲】</li> <li>臨床検査技師1名増員(4月)</li> <li>臨床工学技士の増員を目的に、平成31年4月採用に向け1名の採用予定者を確保した。</li> </ul> <p>【看護職】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に比べ人数の増減は無し。平成31年4月採用に向け11名の採用予定者を確保した。</li> </ul> <p>【事務職】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局部門の体制強化を目的に、平成31年4月採用に向け2名の採用予定者を確保した。</li> </ul>

### Ⅲ 業務運営効率化への取組

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
2 業務運営の見直しや効率化による収支改善 (3) 業務運営コストの節減等 (P. 20)	<p><b>①業務運営コストの削減</b>  <b>1) 材料費</b>            同種同効医薬品の整理など、さらなる使用医薬品の標準化を推進し、調達方法及び対象品目等の見直しを行い、物流一元化の評価及び検証を実施するなどにより薬品費及び診療材料費等の材料費比率の増加の抑制を図る。(※計画本文一部割愛)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療材料費の削減に向けて、使用材料の変更や仕入単価の削減について、診療材料納品業者と定期的な協議を実施。今年度において2,387万円の費用削減に繋がった。</li> <li>ジェネリック医薬品の使用率向上 30年度 91.9% (前年比3.2ポイント上昇)</li> <li>外注検査項目の一部を院内実施へ切り替えることによる経費削減並びに外注検査の価格交渉の継続実施</li> </ul>

### Ⅳ 収支計画及び資金計画

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
3 医療機器・建物整備に関する計画 (P. 22)	<p>安全で良質な医療の向上を維持するためには、効率的・効果的な医療機器の更新及び施設整備は不可欠なものであり、特に老朽化している高額医療機器等の更新については、当院に期待されている診療機能との整合性や、経費面からの費用対効果を稼働率などの客観的な視点で評価し、年次計画に基づき更新する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、磁気共鳴断層撮影装置(MRI)やX線乳房撮影装置(マンモグラフィ)、内視鏡情報管理システム等の高額医療機器の更新が複数予定されていたが、業者選定委員会等で徹底的に精査を行い、精力的な価格交渉を実施した結果、対予算比で約1億8,211万円の削減効果を得た。</li> </ul>

### Ⅴ その他業務運営に関する取組

取組項目	計画内容	取組内容・効果等
1 広報に関する事項 (P. 23)	<p>当院の使命、果たしている役割・業務等について、広く市民の理解が得られるよう診療内容をわかりやすくタイムリーに発信するなど積極的な広報に努める。また、ホームページだけではなくサンテレビ文字データ放送の「まちナビ」やCATV等の多様な媒体を活用した発信方法により広報を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民向け広報誌「Hope Plus」等の定期的な広報物の発行に加え、広報あしや(芦屋病院特集号)の発行、CATVでの「神経内科(脳神経センター)特集」「眼科特集」の放送を実施。</li> </ul>

# 資料 6

平成30年度 収支状況

(単位 千円)

項 目		29 年 度		30 年 度		対前年度決算 増減率(%)
		予算	決算	予算	決算見込	
収	医 業 収 益	4,504,663	4,588,290	4,913,017	4,920,089	107.2
	入院収益	2,818,675	2,901,009	3,167,458	3,169,436	109.3
	外来収益	1,045,012	1,057,044	1,084,580	1,084,046	102.6
	室料差額収益	232,922	222,906	238,726	251,275	112.7
	一般会計負担金	255,986	255,986	260,826	260,826	101.9
	その他医業収益	152,068	151,345	161,427	154,506	102.1
益	医 業 外 収 益	366,571	367,612	418,223	417,332	113.5
	一般会計負担金補助金	281,173	281,173	287,273	287,105	102.1
	その他医業外収益	85,398	86,439	130,950	130,227	150.7
	特別利益	1,000	2,996	1,000	2,659	88.8
収 益 合 計		4,872,234	4,958,898	5,332,240	5,340,080	107.7
費	医 業 費 用	5,326,015	5,165,719	5,466,831	5,247,442	101.6
	給与費	3,052,506	3,015,101	3,159,664	3,072,660	101.9
	材料費	863,172	808,808	906,407	848,168	104.9
	委託料	537,027	487,724	535,677	490,657	100.6
	減価償却費	606,011	607,402	554,726	546,068	89.9
	その他医業費用	267,299	246,684	310,357	289,889	117.5
	医 業 外 費 用	155,810	218,833	150,705	238,978	109.2
	支払利息	104,797	103,677	98,948	98,250	94.8
	その他医業外費用	51,013	115,156	51,757	140,728	122.2
	特別損失	30,000	19,709	30,000	26,828	136.1
予備費	30,000	0	30,000	0	0.0	
費 用 合 計		5,541,825	5,404,261	5,677,536	5,513,248	102.0
純 損 益		△ 669,591	△ 445,363	△ 345,296	△ 173,168	

※平成29・30年度予算は補正予算後の数値です。

医業損益	△ 821,352	△ 577,429	△ 553,814	△ 327,353
医業収支比率	84.6	88.8	89.9	93.8
経常損益	△ 610,591	△ 428,650	△ 286,296	△ 148,999
経常収支比率	88.9	92.0	94.9	97.3

※医業損益：医業収益－医業費用

※医業収支比率：(医業収益／医業費用)×100

※経常損益：(医業収益＋医業外収益)－(医業費用＋医業外費用)

※経常収支比率：((医業収益＋医業外収益)÷(医業費用＋医業外費用))×100

## 施設基準 届出一覧

平成31年3月時点

基本診療料		
名称	届出日	備考
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）	平成20年09月	
臨床研修病院入院診療加算1（基幹型）	平成16年07月	
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	平成22年04月	
診療録管理体制加算2	平成29年04月	
医師事務作業補助体制加算1（30対1）	平成30年11月	区分変更（40対1から変更）
急性期看護補助体制加算（50対1）	平成23年01月	
療養環境加算	平成27年07月	
重症者等療養環境特別加算	平成22年07月	
無菌治療室管理加算	平成24年08月	
緩和ケア診療加算	平成29年11月	
個別栄養食事管理加算	平成30年04月	
精神科リエゾンチーム加算	平成30年09月	
栄養サポートチーム加算	平成29年05月	
医療安全対策加算1	平成20年04月	
医療安全対策地域連携加算	平成30年04月	
感染防止対策加算1	平成24年05月	
感染防止対策地域連携加算	平成26年04月	
抗菌薬適正使用支援加算	平成30年04月	
患者サポート体制充実加算	平成24年04月	
呼吸ケアチーム加算	平成26年04月	
後発医薬品使用体制加算1	平成30年04月	
病棟薬剤業務実施加算1	平成24年04月	
データ提出加算2 ロ	平成24年10月	
入退院支援加算2	平成28年11月	
入院時支援加算	平成30年04月	
認知症ケア加算1	平成29年04月	
小児入院医療管理料5	平成26年12月	
緩和ケア病棟入院料1	平成24年08月	
短期滞在手術等基本料2	平成26年04月	

〈削除項目〉

名称	辞退日	備考
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成31年02月	従事者要件を満たせない為

## 施設基準 届出一覧

平成31年3月時点

特掲診療料		
名称	届出日	備考
糖尿病合併症管理料	平成26年08月	
がん性疼痛緩和指導管理料	平成22年04月	
がん患者指導管理料イ、ロ	平成26年04月	
がん患者指導管理料ハ	平成28年04月	
糖尿病透析予防指導管理料	平成29年02月	
夜間休日救急搬送医学管理料	平成24年04月	
救急搬送看護体制加算	平成30年04月	
ニコチン依存症管理料	平成29年07月	
療養・就労両立支援指導料	平成30年04月	
開放型病院共同指導料（Ⅱ）	平成16年07月	
外来緩和ケア管理料	平成29年11月	
がん治療連携計画策定料	平成27年07月	
肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年04月	
薬剤管理指導料	平成22年04月	
地域連携診療計画加算	平成28年04月	
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	平成28年04月	
医療機器安全管理料1	平成22年07月	
在宅患者訪問看護・指導料	平成24年12月	
持続血糖測定器加算	平成26年04月	
造血器腫瘍遺伝子検査	平成24年11月	
H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	平成26年04月	
検体検査管理加算（Ⅱ）	平成20年04月	
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成24年09月	
胎児心エコー法	平成22年04月	
皮下連続式グルコース測定	平成26年10月	
小児食物アレルギー負荷検査	平成24年05月	
センチネルリンパ節生検（片側）	平成22年04月	
画像診断管理加算2	平成22年08月	
C T 撮影及びMR I 撮影	平成24年04月	
冠動脈C T 撮影加算	平成20年04月	
大腸C T 撮影加算	平成24年04月	

施設基準 届出一覧

平成31年3月時点

特掲診療料		
名称	届出日	備考
心臓MR I 撮影加算	平成21年09月	
小児鎮静下MR I 撮影加算	平成30年04月	
外来化学療法加算 1	平成20年04月	
無菌製剤処理料	平成20年05月	
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	平成26年01月	
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成26年01月	
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成25年02月	
がん患者リハビリテーション料	平成25年03月	
認知療法・認知行動療法	平成29年11月	
処置の休日加算 1、時間外加算 1 及び深夜加算 1	平成26年04月	
乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算 1 を算定する場合に限る。）	平成30年06月	
乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算 2 を算定する場合に限る。）	平成22年04月	
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成18年04月	
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成24年04月	
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術	平成20年04月	
手術の休日加算 1、時間外加算 1 及び深夜加算 1	平成26年04月	
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	平成26年04月	
輸血管理料Ⅱ	平成19年05月	
輸血適正使用加算	平成24年04月	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年09月	
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成26年04月	
麻酔管理料（Ⅰ）	平成27年03月	
保険医療機関間の連携による病理診断	平成26年11月	
テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	平成23年04月	
テレパソロジーによる術中迅速細胞診	平成23年04月	



## 各種委員会活動状況

## 診療局部長会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.6.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率・逆紹介率の状況について</li> <li>・直近の断診状況について</li> <li>・外科系救急について</li> <li>・外来問診票への項目追加について</li> <li>・救急外来受診もしくは入院した紹介患者に対する一次返書について</li> </ul>
2	H30.9.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率・逆紹介率の状況について</li> <li>・直近の断診状況について</li> <li>・前回の協議事項の報告</li> <li>・がん地域連携パスの稼働状況について</li> <li>・『芦っ子メディカルリンク』の接続状況の報告について</li> </ul>

## リスクマネジメント委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署報告</li> <li>・抗糖尿病薬の指示について</li> <li>・懸案事項</li> </ul>
2	H30.5.18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告事項 1) 電動車いす説明会実施 2) 持参薬について</li> <li>・インシデントレポート2事例について</li> </ul>
3	H30.6.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告事項 1) 医療安全対策地域連携加算1について</li> <li>2) シニアカーの取り扱いについて</li> <li>・患者誤認防止について</li> </ul>
4	H30.7.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告事項 1) 連携医療機関相互ラウンド</li> <li>2) 院内での電動車いすの取り扱い方法について</li> <li>・6月18日地震、6月29日停電時の問題点(ネットワーク停止)</li> <li>・インシデントレポート報告</li> </ul>
5	H30.8.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防本部による防火講習会 8月10日(金)15時～</li> <li>・連携医療機関相互ラウンド</li> <li>・骨密度測定時、造影検査実施の有無を確認する方法について</li> <li>・経腸栄養管理中の患者に食塩を投与する方法について</li> </ul>
6	H30.9.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全対策加算 1-1連携医療機関相互ラウンド</li> <li>・医療安全対策加算 1-2連携医療機関ラウンド</li> <li>・災害対策検討委員会開催予定 停電シュミレーション実施予定</li> </ul>
7	H30.10.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全対策加算 1-1連携医療機関相互ラウンド</li> <li>・災害対策検討委員会</li> <li>・9月21日停電シュミレーション実施</li> </ul>
8	H30.11.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急マニュアルの掲載(緊急時に必要なアナフィラキシーショックの対応など)</li> </ul>
9	H30.12.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話による患者からの病名等の問い合わせについて対応検討</li> <li>・レベル承認検討患者について</li> </ul>
10	H31.1.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデントレポート</li> <li>・安全ラウンド</li> </ul>

リスクマネジメント委員会

	開催日	報告・協議事項
11	H31. 2. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデントレポート</li> <li>・各部署報告</li> </ul>
12	H31. 3. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話による患者からの病名等の問い合わせについて対応検討</li> <li>・安全ラウンド</li> <li>・安全ラウンド</li> </ul>

感染対策委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 5. 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月細菌動向報告</li> <li>・4月抗菌薬使用状況</li> <li>・4月感染動向報告</li> <li>・手術室より、手術部位感染について</li> <li>・感染対策ニュースについて</li> <li>・院内感染対策研修会の日程</li> </ul>
2	H30. 6. 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月細菌動向報告</li> <li>・5月抗菌薬使用状況</li> <li>・5月感染動向報告</li> <li>・職員へのワクチン接種</li> </ul>
3	H30. 7. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月細菌動向報告</li> <li>・6月抗菌薬使用状況</li> <li>・6月感染動向報告</li> <li>・感染対策ニュースについて</li> <li>・新入職員へのムンプスワクチンについて</li> </ul>
4	H30. 8. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月細菌動向報告</li> <li>・7月抗菌薬使用状況</li> <li>・7月感染動向報告</li> <li>・ESBL産生菌のアウトブレイクについて</li> <li>・感染対策ニュースについて</li> </ul>
5	H30. 9. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月細菌動向報告</li> <li>・8月抗菌薬使用状況</li> <li>・8月感染動向報告</li> <li>・ESBL産生菌のアウトブレイクについて</li> <li>・感染対策ニュースについて</li> </ul>
6	H30. 10. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月細菌動向報告</li> <li>・9月抗菌薬使用状況</li> <li>・9月感染動向報告</li> <li>・職員の風疹ワクチンについて</li> <li>・感染対策ニュースについて</li> </ul>
7	H30. 11. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月細菌動向報告</li> <li>・10月抗菌薬使用状況</li> <li>・10月感染動向報告</li> </ul>
8	H30. 12. 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月細菌動向報告</li> <li>・11月抗菌薬使用状況</li> <li>・11月感染動向報告</li> <li>・HIV予防内服について</li> <li>・感染対策ニュースについて</li> </ul>

感染対策委員会

	開催日	報告・協議事項
9	H31. 1. 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月細菌動向報告</li> <li>・12月抗菌薬使用状況</li> <li>・12月感染動向報告</li> <li>・感染対策ニュース(外科医：CVレポート)について</li> <li>・HIV予防内服の変更について</li> </ul>
10	H31. 2. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月細菌動向報告</li> <li>・1月抗菌薬使用状況</li> <li>・1月感染動向報告</li> <li>・麻しんの流行について</li> <li>・感染対策ニュース</li> </ul>
11	H31. 3. 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月細菌動向報告</li> <li>・2月抗菌薬使用状況</li> <li>・2月感染動向報告</li> <li>・感染対策ニュース(次年度も今年度の順番で)</li> <li>・新型インフルエンザ等対策行動計画</li> <li>・院内感染対策セミナー</li> </ul>

化学療法運営委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 4. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん化学療法患者情報について</li> <li>・インフューザーポンプについて</li> </ul>
2	H30. 5. 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん化学療法患者情報シートについて</li> <li>・レジメンの登録について</li> </ul>
3	H30. 6. 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内服抗がん剤と点滴抗がん剤を含むレジメンの運用について</li> </ul>
4	H30. 7. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内服抗がん剤と点滴抗がん剤を含むレジメンの運用について</li> </ul>
5	H30. 8. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンの登録について</li> <li>・MTX大量療法の副作用予防の薬剤について</li> </ul>
6	H30. 9. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンの登録について</li> </ul>
7	H30. 10. 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンの登録について</li> </ul>
8	H30. 11. 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンの登録について</li> </ul>
9	H30. 12. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンの登録について</li> </ul>
10	H31. 1. 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンの登録について</li> </ul>
11	H31. 2. 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメンの登録について</li> </ul>

医療廃棄物管理委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 10. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度褥瘡年間報告</li> <li>・生食溶解液キットH100mlとバイアルの廃棄方法について</li> </ul>

褥瘡対策委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.6.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度褥瘡年間報告</li> <li>平成30年度上半期目標</li> <li>褥瘡回診方法について</li> <li>各科報告</li> </ul>
2	H31.2.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度上半期褥瘡対策報告</li> <li>褥瘡回診方法について</li> <li>各科報告</li> </ul>

救急医療推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.4.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> <li>救急患者受け入れマニュアル</li> <li>救急カート配置薬の件</li> </ul>
2	H30.5.18	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> </ul>
3	H30.6.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> </ul>
4	H30.7.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> </ul>
5	H30.8.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> </ul>
6	H30.9.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> </ul>
7	H30.10.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> <li>平日時間外の小児救急患者の受け入れについて</li> </ul>
8	H30.11.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> <li>停電時に伴う救急患者受け入れの制限について</li> </ul>
9	H30.12.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> <li>1.17標語メモリアルウォーク2019への協力依頼について</li> <li>救急医療にかかるMRI検査の実施について</li> <li>ネットワーク更新有無にかかる導入スケジュール(案)について</li> </ul>
10	H31.1.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> </ul>
11	H31.3.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> <li>芦屋ファンランについて</li> </ul>
12	H31.4.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>芦屋消防報告</li> <li>芦屋病院報告</li> <li>住所不定の救急患者の対応について</li> </ul>

チーム医療推進委員会（サポータティブケアチーム）

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 4 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年4月新規サポータティブケアチーム入コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> <li>・心不全チームとの連携について</li> <li>・PEACE研修実施に関する話し合い</li> </ul>
2	H30. 5 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年5月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> <li>・サポータティブケアチームのパンフレット作成について</li> <li>・PEACE研修実施に関する話し合い</li> </ul>
3	H30. 6 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年6月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> <li>・サポータティブケアチームのパンフレット作成について</li> <li>・PEACE研修実施に関する話し合い</li> </ul>
4	H30. 7 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年7月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> </ul>
5	H30. 8 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年8月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> </ul>
6	H30. 9 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年9月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> </ul>
7	H30. 10 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年10月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> </ul>
8	H30. 11 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年11月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> </ul>
9	H30. 12 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年12月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> </ul>
10	H31. 1 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年1月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> </ul>
11	H31. 2 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年2月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> <li>・PEACE研修実施に関する話し合い</li> </ul>
13	H31. 3 毎週水曜日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年3月緩和ケアチーム入院患者対象コンサルテーション実績</li> <li>・症例カンファレンスについて</li> <li>・「いたみどめ調整入院」（フェントテープ 1mg導入入院）の医療者用クリニカルパス作成</li> </ul>

チーム医療推進委員会（心不全チーム）

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 5. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新メンバー紹介</li> <li>・心不全チーム回診について</li> <li>・終末期医療に関する事前指示について</li> <li>・急性・慢性心不全ガイドラインの内容について</li> </ul>
2	H30. 6. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスについて</li> <li>・西宮勉強会(フレイルと心不全について)</li> </ul>
3	H30. 7. 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心不全カンファレンス</li> <li>・回診ラウンド報告</li> </ul>

チーム医療推進委員会（心不全チーム）

	開催日	報告・協議事項
4	H30. 8. 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>心不全カンファレンス</li> <li>回診ラウンド報告</li> <li>英文抄読</li> </ul>
5	H30. 10. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>心不全カンファレンス</li> <li>回診ラウンド報告</li> <li>英文抄読</li> </ul>
6	H30. 12. 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>心不全カンファレンス</li> <li>カンファレンス、回診ラウンド報告</li> <li>英文抄読</li> </ul>
7	H31. 2. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>心不全カンファレンス</li> <li>退院前の心不全患者指導シートの検討</li> <li>退院後のホームエクササイズについて</li> </ul>

チーム医療推進委員会（足チーム）

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 8. 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度活動目標</li> <li>平成29年度各科報告</li> <li>活動計画</li> </ul>

診療報酬・DPC対策委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 4. 23	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> </ul>
2	H30. 5. 28	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> </ul>
3	H30. 6. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> </ul>
4	H30. 7. 23	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> </ul>
5	H30. 8. 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> </ul>
6	H30. 9. 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> </ul>
7	H30. 10. 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> <li>皮膚欠損用創傷被覆剤と衛生材料について</li> </ul>
8	H30. 11. 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>査定状況について</li> <li>DPCコーディングについての検討</li> <li>算定実績について</li> <li>平成30年度診療報酬改定情報について</li> </ul>

診療報酬・DPC対策委員会

	開催日	報告・協議事項
9	H30.12.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・査定状況について</li> <li>・DPCコーディングについての検討</li> <li>・算定実績について</li> <li>・患者からの診療報酬に関する疑義について</li> </ul>
10	H31.1.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・査定状況について</li> <li>・DPCコーディングについての検討</li> <li>・算定実績について</li> <li>・平成30年度診療報酬改定情報について</li> </ul>
11	H31.2.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・査定状況について</li> <li>・DPCコーディングについての検討</li> <li>・算定実績について</li> </ul>
12	H31.3.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・査定状況について</li> <li>・DPCコーディングについての検討</li> <li>・算定実績について</li> </ul>

薬事委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.4.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急購入薬の報告</li> <li>・緊急に院外専用登録した薬剤の報告</li> <li>・院内、院外の新規採用薬の検討</li> <li>・院内削除薬の検討</li> <li>・期限切れの薬剤の報告</li> </ul>
2	H30.6.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急購入薬の報告</li> <li>・院内、院外の新規採用薬の検討</li> <li>・ジェネリック薬品の検討</li> <li>・院内削除薬の検討</li> <li>・期限切れ薬剤の報告</li> </ul>
3	H30.8.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急購入薬の報告</li> <li>・院内、院外の新規採用薬の検討</li> <li>・ジェネリック薬品の検討</li> <li>・院内削除薬の検討</li> <li>・期限切れ薬剤の報告</li> </ul>
5	H30.10.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急購入薬の報告</li> <li>・院内、院外の新規採用薬の検討</li> <li>・ジェネリック薬品の検討</li> <li>・院内削除薬の検討</li> <li>・期限切れ薬剤の報告</li> </ul>
6	H30.12.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急購入薬の報告</li> <li>・院内、院外の新規採用薬の検討</li> <li>・ジェネリック薬品の検討</li> <li>・院内削除薬の検討</li> <li>・期限切れ薬剤の報告</li> </ul>
7	H31.2.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急購入薬の報告</li> <li>・院内、院外の新規採用薬の検討</li> <li>・ジェネリック薬品の検討</li> <li>・院内削除薬の検討</li> <li>・期限切れ薬剤の報告</li> </ul>

クリニカルパス推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 4. 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パス適応患者集計</li> <li>・パス中止件数</li> <li>・アウトカム未評価件数</li> <li>・新規パスについて</li> <li>・改訂パスとその修正内容</li> <li>・今年度の目標</li> <li>・パス運用中における不具合について</li> <li>・肺炎パスの作成について</li> <li>・栄養指導について</li> </ul>
2	H30. 6. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パス適応患者集計</li> <li>・パス中止件数</li> <li>・アウトカム未評価件数について</li> <li>・新規パスについて</li> <li>・改訂パスとその修正内容について</li> <li>・看護計画の不具合について</li> <li>・今年度の目標について</li> <li>・肺炎パスの進捗状況について</li> <li>・栄養指導についての検討結果</li> </ul>
3	H30. 8. 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パス適応患者集計</li> <li>・パス中止件数</li> <li>・アウトカム未評価件数</li> <li>・新規パスについて</li> <li>・改訂パスとその修正内容</li> <li>・外科の適応率が20%下降していることについて</li> </ul>
4	H30. 10. 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パス適応患者集計</li> <li>・パス中止件数</li> <li>・アウトカム未評価件数について</li> <li>・新規パスについて</li> <li>・連絡確認事項</li> </ul>
5	H30. 12. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パス適応患者集計</li> <li>・パス中止件数</li> <li>・アウトカム未評価件数について</li> <li>・改訂パスとその修正内容について</li> </ul>
6	H31. 2. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パス適応患者集計</li> <li>・パス中止件数</li> <li>・新規パスについて</li> <li>・アウトカム未評価件数について</li> <li>・改訂パスとその修正内容について</li> </ul>

診療システム化推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 5. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・30年度ネットワーク変更について</li> <li>・緊急時対応シュミレーションについて</li> <li>・患者コメント・入院計画書の記載について</li> </ul>
2	H30. 6. 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・オーディットの実施について</li> <li>・カルテ廃棄について</li> <li>・患者コメントの入力ツールについて</li> <li>・電子カルテの入力文字色の追加について</li> <li>・緊急時シュミレーションについて</li> <li>・同意書等の印字について</li> </ul>



3	H30.7.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・平成30年度 ネットワーク更新について</li> </ul>
---	----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

診療システム化推進委員会

	開催日	報告・協議事項
4	H30.10.31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・入院計画書について</li> <li>・死亡情報の共有について</li> <li>・入院時移動食事指示について</li> <li>・文書管理の表示変更について</li> <li>・計画停電にかかる電子カルテの取り扱いについて</li> </ul>
5	H30.11.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・入院計画書について</li> <li>・文書管理の西暦表示変更について</li> <li>・新元号対応について</li> <li>・各システムのWindows10への対応について</li> </ul>
6	H31.1.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・ネットワーク更新業務に伴うネットワーク停止について</li> <li>・「細菌結果」に列挙している抗生物質の薬剤名について</li> <li>・PACSの更新について</li> </ul>
7	H31.2.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・ネットワーク更新業務に伴うネットワーク停止について</li> <li>・新元号対応について</li> <li>・PACS更新スケジュールについて</li> </ul>
8	H31.3.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマリーの記載率、完成率について</li> <li>・氏名不明の時間外救急患者のカルテについて</li> <li>・新元号対応について</li> </ul>

手術室・中材運営委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.4.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> </ul>
2	H30.5.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> </ul>
3	H30.6.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> </ul>
4	H30.7.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・手術件数内訳</li> </ul>

開催日		報告・協議事項
5	H30. 8. 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・手術件数内訳</li> <li>・産婦人科手術枠の変更について</li> </ul>
6	H30. 9. 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・手術件数内訳</li> <li>・麻酔同意書について</li> <li>・CV留置に関するマニュアルの作成について</li> </ul>
7	H30. 10. 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・手術件数内訳</li> <li>・目標手術件数達成率</li> </ul>
8	H30. 11. 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・手術件数内訳</li> </ul>
9	H30. 12. 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・患者入室手術が中止となった症例が2件発生した件について</li> <li>・麻酔同意書について</li> <li>・麻酔の基準値に関して</li> </ul>
10	H31. 1. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・12/28災害避難訓練実施報告</li> <li>・12/29～1/2看護師のオンコール体制を強いたが、年末年始緊急手術は0件</li> <li>・インシデント報告</li> <li>・ゴールデンウィーク期間中の手術枠について</li> </ul>

手術室・中材運営委員会

	開催日	報告・協議事項
11	H31. 2. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> <li>・各科手術実績</li> </ul>
12	H31. 3. 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムアウト報告</li> <li>・アネステーション麻酔科医/応援医依頼件数</li> <li>・緊急手術件数</li> <li>・時間外退出件数</li> <li>・入力締め切り後の入力件数と内訳</li> <li>・術中迅速病理検査</li> </ul>

給食業務調整委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 5. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非日常報告</li> <li>・年間計画現況報告</li> <li>・院内栄養基準(変更：糖尿病食)</li> </ul>
2	H30. 7. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非日常報告(5. 6月)</li> <li>・年間計画の現況報告</li> </ul>
3	H30. 9. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非日常報告</li> <li>・年間計画の現況報告</li> <li>・特別食加算率の現状</li> <li>・移動給食システムの一部変更</li> </ul>
4	H30. 11. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非日常報告</li> <li>・年間計画の現況報告</li> <li>・移動給食システムの一部変更</li> </ul>
5	H31. 1. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非日常報告</li> <li>・年間計画の現況報告</li> <li>・イベントメニューの報告</li> </ul>
6	H31. 3. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非日常報告</li> <li>・年間計画の現況報告</li> <li>・アンケート結果報告</li> </ul>

学術研修委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 11. 22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度年間購入図書について</li> </ul>

質・環境向上委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 9. 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度患者満足度調査の結果報告について</li> <li>・平成30年度患者満足度調査の実施について</li> </ul>
2	H30. 11. 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度患者満足度調査について(経過報告)</li> <li>・平成30年度患者満足度調査の実施について</li> </ul>

## 放射線科運営委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 4. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度医療機器更新予算決定について</li> <li>「簡易型クレアチニン測定器を用いたクレアチニン値の検討」を院内倫理委員会に申請する件について</li> <li>MRI検査時のアジルサイトAgの取り扱いについて</li> </ul>
2	H30. 5. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンモグラフィー装置更新について</li> <li>放射線科医用画像管理・放射線情報管理・DICOM画像検像システム(SYNAPSE)更新について</li> <li>CT造影検査枠見直しについて</li> </ul>
3	H30. 6. 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>CT・MRI検査枠の変更案について</li> <li>整形外科の依頼内容(股関節撮影の計測用メジャーあり・なし)の変更について</li> </ul>
4	H30. 7. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>造影剤(ウログラフィン注60% 100ml×1瓶)の供給遅延について</li> <li>マンモグラフィー、MRI、放射線情報・読影レポート・PACSシステム機器更新について</li> <li>CTメンテナンス日程について</li> </ul>
5	H30. 8. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>造影剤(ウログラフィン注60% 100ml×1瓶)の供給遅延終了について</li> <li>マンモグラフィー、MRI装置の機種選定委員会開催決定について</li> <li>血管造影検査の取り扱いについて</li> </ul>
6	H30. 9. 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器選定委員会報告①マンモグラフィー装置②MRI装置について</li> <li>平成31年度 医療機器要求について</li> <li>医師勤務について</li> <li>ホスピタルフェスタ催しについて</li> </ul>
7	H30. 10. 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環器内科より「冠動脈CT」の曜日変更依頼について</li> <li>平成30年度更新機器 決定について</li> <li>導入乳房撮影装置の取り決め事項について</li> <li>緊急他院CDR画像取り扱いについて</li> <li>当委員会への一時的な追加メンバーについて</li> <li>年末年始の「(緊急)MR検査」についての検討</li> </ul>
8	H30. 11. 28	<ul style="list-style-type: none"> <li>MRI装置導入時の検査停止時の対応について</li> <li>MRI装置導入に伴う部屋レイアウト変更について</li> <li>DXA予約について要望について</li> <li>年末年始のMRI稼働要請について</li> </ul>
9	H30. 12. 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>年末年始のMRI撮像対応(継続審議)について</li> <li>乳房撮影装置搬入スケジュール最終確認について</li> <li>DEXA予約のアラート表示について</li> <li>来年度機器更新予定はCT装置で停止期間はレンタルCTで代用について</li> </ul>
10	H31. 1. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>CT室造影剤注入器、CT装置、血管撮影装置のメンテナンス日程について</li> <li>RIS(放射線情報システム)・PACS・REPORTの導入開始について</li> <li>工事更新スケジュールについて</li> <li>平成31年度 CT装置の更新を想定した機器選定情報について</li> </ul>
11	H31. 2. 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDI(ポータブルディスクイメージ)システムの設置場所について</li> <li>RIS(放射線情報システム)・PACS稼働切り替えスケジュールについて</li> <li>外科より血管造影室にてV-Port埋め込みが可能なのかに関する協議について</li> <li>注腸検査枠の減枠について</li> </ul>
12	H31. 3. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像取り込みに関する運用方法について</li> <li>機器選定委員会の開催について</li> </ul>

安全衛生委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 4. 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場巡視について</li> <li>・平成30年度職員定期健康診断について</li> <li>・医師の当直回数（平成30年3月分）</li> <li>・超過勤務状況について</li> </ul>
2	H30. 5. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場巡視報告について</li> <li>・平成30年度職員定期健康診断について</li> <li>・麻疹風疹ワクチン接種について</li> <li>・医師の当直回数（平成30年4月分）</li> <li>・超過勤務状況について</li> </ul>
3	H30. 6. 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻疹風疹ワクチンの運用に関する課題について</li> <li>・心身の健康支援合同連絡協議会について</li> <li>・医師の当直回数（平成30年5月分）</li> <li>・超過勤務状況について</li> </ul>
4	H30. 7. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックアンケートについて</li> <li>・職員健康診断の進捗状況について</li> <li>・医師の当直回数（平成30年6月分）</li> <li>・超過勤務状況について（平成30年6月分）</li> </ul>
5	H30. 8. 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場巡視について</li> <li>・職員健康診断の進捗状況について</li> <li>・医師の当直回数（平成30年7月分）</li> <li>・超過勤務状況について（平成30年7月分）</li> </ul>
6	H30. 9. 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ワクチン接種について</li> <li>・下半期以降の予定について</li> </ul>
7	H30. 10. 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ワクチン接種について</li> <li>・下半期以降の予定について</li> </ul>
8	H30. 11. 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックアンケートの結果について</li> <li>・ハラスメント研修会の開催について</li> <li>・医師の当直回数</li> <li>・超過勤務状況について</li> </ul>
9	H31. 2. 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療監視指摘事項について</li> <li>・ストレスチェックアンケートの結果について</li> <li>・試し出勤について</li> <li>・医師の当直回数</li> <li>・超過勤務状況について</li> </ul>

医療ガス安全管理委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 10. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検結果報告</li> <li>・監督責任者、実施責任者選出</li> <li>・窒素ボンベマニュホールドについて</li> </ul>
2	H31. 3. 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検結果報告</li> <li>・監督責任者、実施責任者選出</li> <li>・LGC(可搬式超低温液化ガス容器)に関して</li> <li>・窒素ボンベマニュホールドについて</li> <li>・LGCの固定(地震対応)</li> <li>・3. 5L酸素ボンベの所在確認</li> <li>・医療ガス設備の点検(実施責任者)</li> </ul>

輸血療法委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.5.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月、4月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC, 廃棄率など）</li> <li>・副作用報告</li> <li>・検査科より</li> </ul>
2	H30.7.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月、6月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC, 廃棄率など）</li> <li>・副作用報告</li> <li>・検査科より</li> </ul>
3	H30.9.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月、8月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など）</li> <li>・副作用報告</li> <li>・検査科より</li> </ul>
4	H30.11.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月、10月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など）</li> <li>・副作用報告</li> <li>・検査科より</li> </ul>
5	H31.1.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月、12月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など）</li> <li>・副作用報告</li> <li>・検査科より</li> </ul>
6	H31.3.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月、2月の製剤使用状況（RBC, PC, ALB/RBC廃棄率など）</li> <li>・副作用報告</li> <li>・検査科より</li> </ul>

臨床研修管理委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30.4.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期臨床研修医2年目の修了について</li> </ul>
2	H30.7.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度初期研修医の当直の料金変更の確認</li> <li>・平成31年度初期研修医採用試験について</li> </ul>
3	H30.9.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医の現況についての確認</li> <li>・平成31年度初期研修医採用試験について</li> </ul>
4	H30.11.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医の現況についての確認</li> <li>・平成31年度初期研修医採用について</li> <li>・平成30年度CPC開催について</li> <li>・臨床研修医病院説明会について</li> <li>・新専門医制度日本内科学会臨床研修医指導医の登録について</li> </ul>
5	H31.2.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度研修スケジュール及び平成31年度兵庫医科大学病院の研修医受け入れについて</li> <li>・平成31年3月2日（土）・3月16日（土）の臨床研修病院説明会について</li> <li>・内科専門制度 近畿中央病院からの受け入れについて</li> <li>・研修医現況・修了について</li> </ul>
6	H31.3.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度研修スケジュール及び平成31年度兵庫医科大学病院の研修医受け入れについて</li> <li>・平成31年3月16日（土）臨床研修病院説明会について</li> <li>・内科専門医制度 後期研修医4年目 2名の受け入れについて</li> <li>・研修医現況・2年目研修医修了について</li> </ul>

臨床検査適正化委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 6. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検体検査管理加算請求状況について</li> <li>・内部精度管理について</li> <li>・外部精度管理について</li> <li>・前回(平成29年12月、第2回)委員会の検討事項について</li> </ul>
2	H31. 2. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検体検査管理加算請求状況について</li> <li>・内部精度管理について</li> <li>・院内実施検査の外注化見直しについて</li> <li>・新規項目の採用について</li> <li>・外部精度管理調査報告について</li> <li>・前回(平成30年6月、第1回)委員会の検討事項について</li> </ul>

医師職等処遇改善検討委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H31. 3. 22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度医師職負担軽減計画達成状況について</li> <li>・平成29年度看護職負担軽減計画達成状況について</li> <li>・平成30年度医師職負担軽減および看護職負担軽減の計画策定について</li> </ul>

糖尿病教室

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 4. 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月以降の教室について</li> <li>・糖尿病療養講座について</li> </ul>
2	H30. 5. 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月以降の教室について</li> <li>・糖尿病療養講座について</li> <li>・患者会あしや会について</li> </ul>
3	H30. 6. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月以降の教室について</li> <li>・9月以降の計画案について</li> </ul>
4	H30. 9. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の教室結果について</li> <li>・10月以降の教室予定について</li> <li>・糖尿病療養講座について</li> <li>・患者会イベントについて</li> </ul>
5	H30. 10. 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月の教室結果について</li> <li>・11月以降の教室予定について</li> <li>・患者会イベントについて</li> <li>・糖尿病療養講座について</li> </ul>
6	H30. 11. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の教室結果について</li> <li>・12月以降の教室予定について</li> <li>・患者会活動について</li> <li>・学習入院教育媒体について</li> </ul>
7	H30. 12. 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月の教室結果について</li> <li>・1月以降の教室予定について</li> <li>・学習入院教育媒体について</li> </ul>
8	H31. 1. 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月の教室結果について</li> <li>・2月以降の教室予定について</li> <li>・学習入院教育媒体について</li> </ul>
9	H31. 3. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月の教室結果について</li> <li>・3月以降の教室予定について</li> <li>・学習入院教育媒体について</li> </ul>

広報推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 11. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院誌21号(平成29年度実績)の作成について</li> <li>・7月15日発行 広報あしや臨時号についての報告</li> <li>・J-COMあしやトライあぐる「芦屋病院特集」についての報告</li> </ul>

診療材料適正化委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 8. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療材料の定数変更について</li> <li>・診療材料の新規登録について</li> </ul>
2	H30. 10. 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療材料の定数変更について</li> <li>・診療材料の新規登録について</li> </ul>
3	H30. 1. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療材料の定数変更について</li> <li>・診療材料の新規登録について</li> </ul>

医療機器整備委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 11. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度 各部署医療機器予算要求について</li> </ul>
2	H30. 12. 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署の医療機器購入決定に関して</li> </ul>

地域医療推進委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 8. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来患者のかかりつけ医療機関の情報収集ならびに紹介状の取り寄せについて</li> <li>・救急外来受診もしくは入院した紹介患者に対する一次返書について</li> <li>・予約をとらずに当日紹介状を持ち、受診した外来患者の運用について</li> </ul>

院内開業調整委員会

	開催日	報告・協議事項
1	H30. 6. 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂本泌尿器科からの協議事項</li> <li>・山内歯科・口腔外科からの協議事項</li> </ul>
2	H30. 9. 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の協議事項の報告</li> <li>・坂本泌尿器科からの協議事項</li> </ul>
3	H30. 12. 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂本泌尿器科からの協議事項</li> <li>・山内歯科・口腔外科からの協議事項</li> <li>・年末年始の休診日について</li> </ul>



## 講座等活動実績

## 【市民向け講座等】

## がんフォーラム

項 目	開催日	開催場所	参加人数
がんフォーラム2018 「大切にしたい自分の体 ～2度の子宮がんを経験して～」	9月1日	ルナ・ホール	250名

## ホスピタルフェスタ

項 目	開催日	開催場所	参加人数
あしやホスピタルフェスタ2018	11月4日	市立芦屋病院	600名

## 公開講座

項 目	開催日	開催場所	参加人数
健やかに生きるをめざして ～市立芦屋病院の挑戦～	4月14日	芦屋市民センター	34名
最近のお薬にまつわる話題 ～ジェネリック、飲み残し、血掖検査値など～	5月12日		63名
ちょっと気になる眼の病気	6月9日		60名
鼠径ヘルニア（脱腸）のお話 ～周術期のケアも含めて～	8月4日		39名
出張！糖尿病教室	10月6日		46名
尿トラブルのリハビリテーション ～骨盤底筋トレーニング～	11月10日		60名
抗がん剤治療の最近の話題と看護	12月8日		68名
肝硬変について～最近の話題～	1月12日		49名
長引く咳の診断と治療	2月2日		80名
乳癌と検診	3月2日		52名

## 糖尿病教室

項 目	開催日	開催場所	参加人数
糖尿病治療・療養について	4月13日	市立芦屋病院	32名
私に必要な食事の量と質について 処方薬のねらい	5月11日		51名
自己血糖測定について 効果的な運動について 夏場に注意したいこと	6月8日		45名
糖尿病と合併症 外食や間食はどうすればいい？	9月7日		33名
出張！糖尿病教室	10月6日	芦屋市民センター	46名
安全な運動について 年末年始の食事の工夫	10月12日	市立芦屋病院	29名
世界糖尿病ディ記念ミニイベント 糖尿病の最新治療	11月9日		30名

糖尿病教室

項 目	開催日	開催場所	参加人数
シックデイ シックデイの食事 検査結果を読み解く	12月14日	市立芦屋病院	34名
糖尿病と合併症 腎臓の機能にあわせた運動	1月11日		19名
糖尿病とスキンケア よくある勘違い	2月8日		33名
糖尿病総まとめ	3月8日		34名

院内コンサート

項 目	開催日	開催場所
ほのぼのコンサート	月1回	市立芦屋病院
マチネーコンサート	月1回	
講堂コンサート	6月24日 9月23日 12月16日 3月17日	

その他

項 目	開催日	開催場所
芦屋さくらまつり	4月7日 4月8日	芦屋川付近
休日がん検診	10月14日 2月17日	市立芦屋病院
休日特定健診	11月4日	市立芦屋病院
子育て支援活動「あい・あいる一む」「カンガルー」	月1回	市内集会所ほか

【医療従事者向け講座等（地域医療機関含む）】

医療安全研修会

項 目	開催日	開催場所	参加人数
「5S」と医療安全 ～地域に即した医療安全の確立のために～	5月22日 5月29日	市立芦屋病院	310名
チーム医療からみた安全と臨床コミュニケーションの基本	8月8日		108名
作業中断からのリスク回避を考える	11月27日		174名
プライマリーケアにおける不眠症治療について	12月20日		86名
院内クレーム対応について	3月11日		106名

院内感染対策研修会

項 目	開催日	開催場所	参加人数
病院職員が知っておくべき感染症対策～麻疹・風疹・水痘・ムンプス～	6月15日 6月29日	市立芦屋病院	289名

院内感染対策研修会

項 目	開催日	開催場所	参加人数
抗生物質の薬剤特性 (第1回ASTチーム研修会)	7月10日	市立芦屋病院	43名
最新のインフルエンザ治療について (第2回ASTチーム研修会)	10月22日		51名
薬剤菌耐性～当院の発生事情～ 「ESBL産生菌、CHEについて」 「当院でのESBL院内発生報告対応」	11月16日 11月29日		266名
「正しい手洗いを復習しよう」	11月15日 11月22日		21名
防護用具の使い方・廃棄物の取り扱いについて	12月13日 12月20日		29名
「できていますか手指衛生5つのタイミング」	12月21日		72名
尿道カテーテル関連尿路感染	3月14日		23名

緩和ケア研修会

項 目	開催日	開催場所	参加人数
第1回 市立芦屋病院主催 阪神圏域緩和ケア研修会	7月1日	市立芦屋病院	31名

地域連携研修会

項 目	開催日	開催場所
心不全フォーラム	6月14日	酒蔵通り煉瓦館
兵庫医科大学病院 第18回地域医療懇談会	6月16日	ホテルヒューイット甲子園
第1回CPC 「急速に進行し入院第5病日に永眠された肺炎の1例」	1月23日	市立芦屋病院
第19回神戸市東灘区医師会 病診連携学術談会	2月23日	神戸ベイシェラトンホテル
第20回芦屋市地域医療連絡会	3月30日	ホテル竹園

【各種広報活動】

広報あしや 特集号及び掲載コラム

内 容	掲載日
味覚障害について	5月15日
夏の感染症～ヘルパンギーナについて～	7月15日
臨時号「芦屋病院特集」	7月15日
乳がんと検診の重要性	9月15日

広報あしや 掲載コラム

内 容	掲載日
緩和ケアが広がるように	11月15日
臨床検査と定期健診	1月15日
脱！フレイル	3月15日

芦屋市広報番組「あしやトライアングル」(J-COMケーブルテレビ)

内 容	放送日
特集「4月から神経内科を開設」	6月後半
お知らせ「がんフォーラム2018」	8月後半
お知らせ「休日がん検診のご案内」	9月前半
お知らせ「あしやホスピタルフェスタ2018」 お知らせ「休日特定健診のご案内」	10月後半
お知らせ「年末年始の救急医療」	12月後半
特集「目の健康を保つために」	2月後半

市立芦屋病院だより 「HOPE plus」

内 容	掲載日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任Drのご紹介</li> <li>・整形外科のご紹介「骨折予防・早期の治療・積極的なリハビリテーションで快適な生活を支援します！」</li> <li>・消化器内科のご紹介「全消化管検査・治療に対応！高度な内視鏡治療、シームレスな消化器医療を提供します」</li> <li>・理学療法士による骨盤底筋トレーニングについて</li> <li>・外科系救急の対応日を拡大</li> </ul>	4月1日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任Drのご紹介</li> <li>・がんフォーラム2018 開催のご案内</li> <li>・脳神経センターのご紹介「脳神経疾患に対する診療充実に取り組んでいます」</li> <li>・人間ドックセンターのご紹介「早期発見！年に1度は受診しましょう！」</li> <li>・栄養管理室よりお知らせ「熱中症に注意しましょう」</li> </ul>	7月1日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任Drのご紹介</li> <li>・あしやホスピタルフェスタ2018のご案内</li> <li>・耳鼻咽喉科について</li> <li>・心不全チームについて</li> <li>・認定看護師のご紹介</li> <li>・教えてDr！芦屋メディカルコミュニティー坂本泌尿器科</li> </ul>	10月1日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業管理者新年の挨拶</li> <li>・小児科ご紹介「インフルエンザについて」</li> <li>・嚥下栄養外来ご紹介</li> <li>・検診のお知らせ「休日がん検診の開催」</li> <li>・ご案内「MRI装置停止のご案内」</li> <li>・乳房撮影装置（マンモグラフィ）における機器更新のご案内</li> </ul>	1月1日

市立芦屋病院 地域連携室だより 「UP TO DATE」

内 容	掲載日
特別号「医師・病棟・コメディカルスタッフ紹介」	10月発行

## 研究発表・論文等

## 芦屋クリニカルカンファレンス

開催日時	座長	発表者	演題	会場
2018. 4. 24	竹田 晃	安倍 瑞穂	急性肝障害が先行した薬剤性過敏性症候群 (Drug-induced hypersensitivity syndrome) の一例	芦屋市医師会館
		瀬川 浩平	悪性症候群を発症したパーキンソン病の一例	
2018. 5. 29	水谷 伸	新門 加奈子	繰り返す大腸憩室出血に対して左側結腸切除術を施行した一例	
		山根 和彦	ステロイドによる局所再活性化が疑われたサイトメガロウイルス腸炎の一例	
2018. 6. 26	松浪 周平	近藤 裕文	乳癌骨転移との鑑別を要した多発性骨髄の一例	
		西 孝弘 西岡 彩 中野 康佑 助永 忠比古 間瀬 浩史 片岡 政子 神崎 暁慶 紺屋 浩之	I 型糖尿病に合併した二次性低血糖の一例	
2018. 7. 31	紺屋 浩之	西 孝弘 三方 彰喜 松浪 周平 佐々木 亨 牧野 俊一郎 田守 登茂治 村上 雅一 水谷 伸	胆嚢癌との鑑別に難渋した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1手術症例	
		西岡 彩 中野 康佑 間瀬 浩史 紺屋 浩之	高齢2型糖尿病患者における低血糖について～患者指導を中心に～	
2018. 9. 25	西本哲朗	荒木 信人	仮想軟部肉腫の一例	
		松田 良信	患者の不安に対処する	
2018. 10. 30	木村俊夫	高倉 竜彦 臼井 健朗 石井 久美子 池田 公一郎 竹村 忠晴 竹田 晃	バルーン下逆行性経静脈的塞栓術が著効した上腸間膜静脈～右卵巣静脈短絡路による反復性肝性脳症の一例～	
		木村 俊夫	直腸脱を合併した、骨盤臓器脱に対する経膈手術	

開催日時	座 長	発表者	演 題	会 場
2018. 11. 27	森田 拓	安井 彩子	穿孔性胃潰瘍に対し腹腔鏡下大網充保術を施行した1例	芦屋市医師会館
		森田 拓	Q熱の関与が疑われた急性肺炎の1例	
2019. 1. 29	北川 泰生	小嶋 和絵	Creutzfeldt-Jakob病と痙攣性癲癇重責の鑑別に難渋した1症例	
		安倍 瑞穂	孤立性上腸管膜動脈解離の一例	
2019. 2. 26	三方 彰喜	松浪 周平	鏡視下手術を実施した肝細胞癌の一例	
		田村 宏	介護予防 健康寿命の延伸を目的とした高齢リハビリ外来の開設について	
2019. 3. 26	西浦 哲雄	近藤 裕文 西 孝弘	当院で経験した急性赤芽球癆の2例	
		池田 讓太	乳がん検診とマンモグラフィーの現状と基礎知識～市立芦屋病院の取り組みとともに～	

医局論文発表

内科

著者	題名	雑誌名	巻号
常田 和宏 芳川 篤志 藤田 真吾 山中 未宙 常田 芙佐 檀 倫子 沖田 考平 乾 由明 高原 充佳 岩橋 博見 紅林 昌吾 紺屋 浩之 大塚 章人 半田 伸夫 福井 威志 松島 洋之 渡辺 伸明 河田 純男	2型糖尿病患者の発癌に関する検討（第2報）	糖尿病	61巻Suppl PageS-161、2018
澤田 かおる 加隈 愛子 松若 昌代 田村 宏 上田 一仁 富島 智子 西岡 彩 助永 匡比古 間瀬 浩史 神崎 暁慶 片岡 政子 紺屋 浩之	フラッシュグルコースモニタリング導入がセルフケア行動に対する意欲改善につながった一例	糖尿病	61巻Suppl PageS-213、2018
間瀬 浩史 助永 匡比古 西岡 彩 神崎 暁慶 田村 宏 上田 一仁 加隈 愛子 澤田 かおる 富島 智子 番田 由紀子 松若 昌代 松谷 聡 角田 拓 矢野 雄三 松尾 俊宏 片岡 政子 紺屋 浩之	当院におけるSGLT2阻害薬6剤の長期的効果と安全性の検討	糖尿病	61巻 PageS-299、2018
神崎 暁慶 片岡 政子 西岡 彩 助永 匡比古 間瀬 浩史 今井 教仁 紺屋 浩之	神経心理検査と画像検査に基づく2型糖尿病患者の認知機能調査，及びその背景因子について	糖尿病	61巻Suppl PageS-306、2018



著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
田村 宏 神崎 暁慶 宮本 俊朗 片岡 政子 上田 一仁 西岡 彩 間瀬 浩史 助永 匡比古 澤田 かおる 紺屋 浩之	骨粗鬆症を呈した女性2型糖尿病患者における下肢筋力の低下はフレイルを進行させる	糖尿病	61巻Suppl PageS-395、2018
西岡 彩 助永 匡比古 間瀬 浩史 神崎 暁慶 田村 宏 上田 一仁 加隈 愛子 澤田 かおる 富島 智子 番田 由紀子 松若 昌代 松谷 聡 角田 拓 矢野 雄三 松尾 俊宏 片岡 政子 紺屋 浩之	当院における長時間作用型GLP-1受容体作動薬の臨床的効果と安全性の検討	糖尿病	61巻Suppl PageS-420、2018
間瀬 浩史 助永 匡比古 神崎 暁慶 片岡 政子 紺屋 浩之 中嶋 真一郎	緩和ケアにおける糖尿病診療	糖尿病	61巻6号Page413、2018
片岡 政子 今井 教仁 紺屋 浩之 竹田 晃 西浦 哲雄	MMSE、MoCA-Jを用いて検出した糖尿病患者における早期認知障害(MCI)の特徴	Dementia Japan	32巻3号Page494
澤田 かおる 加隈 愛子 紺屋 浩之	当院における個別栄養食事管理介入の現状と課題	日本病態栄養学会誌	22巻Suppl. Page S-12
Kanzaki A Matsui K Sukenaga T Mase K Nishioka A Tamori T Kataoka S Konya H Mizutani S Takeda A Koseki M Nishiura T Koyama H Sano H	Fever of unknown origin following parathyroidectomy prior to onset of typical polymyalgia rheumatica symptoms: a case report	International Journal of General Medicine	2018:11 307-311

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
Sachiko Okayama Yoshinobu Matsuda (correspondence author) Yoshito Yoshikawa	A comparative study of opioid switching to methadone for cancer pain control in successful and unsuccessful cases	J Palliat Med	Online Ahead of Print:February 4, 2019

### 整形外科

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
荒木 信人	骨転移、進行がんの時代を先読みする -先んじて制するには	CancerBoard square	vol4 no3

### 産婦人科

著 者	題 名	雑 誌 名	巻 号
宮田 明未 銭 鴻武 木村 俊夫 佐治 文隆	症例報告：回腸局所癒着により発症した 腹腔鏡下単純子宮全摘術後の絞扼性腸閉 塞-開腹手術後との癒着形態の違いに注 目する-	日本産婦人科内視鏡学会学 雑誌	2018 Vol14 No.2 233- 237
木村 俊夫	後膣壁repairをどうする、mesh vs non- mesh 後膣壁はno-meshの立場 メッシュとNTRの利点を活かした術式： 前膣壁メッシュと後膣壁縫縮・会陰形成	日本女性骨盤底位医学雑誌	2018 15(1) 167-172
宮田 明未 銭 鴻武 木村 俊夫	TVMを安全に行うために。カダバーによ る女性の骨盤内臨床解剖	日本女性骨盤底位医学雑誌	2018 15(1) 5-9

### 医局学会発表

#### 内科

発 表 者	演 題	学 会 名	月 日
Yoshinobu Matsuda	Methadone administration in combination with mexiletine for switching of methadone from other opioids in patients with refractory cancer pain	EAPC	24 May 2018
澤田 かおる 加隈 愛子 松若 昌代 田村 宏 上田 一仁 富島 智子 西岡 彩 助永 匡比古 間瀬 浩史 神崎 曉慶 片岡 政子 紺屋 浩之	ラッシュグルコースモニタリング導入が セルフケア行動に対する意欲改善につな がった一例	第61回日本糖尿病学会年次 学術集会	2018. 5. 24-26

発表者	演題	学会名	月日
常田 和宏 芳川 篤志 藤田 真吾 山中 未宙 常田 芙佐 檀 倫子 沖田 考平 乾 由明 高原 充佳 岩橋 博見 紅林 昌吾 紺屋 浩之 大塚 章人 半田 伸夫 福井 威志 松島 洋之 渡辺 伸明 河田 純男	2型糖尿病患者の発癌に関する検討（第2報）	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	2018. 5. 24-26
間瀬 浩史 助永 匡比古 西岡 彩 神崎 曉慶 田村 宏 上田 一仁 加隈 愛子 澤田 かおる 富島 智子 番田 由紀子 松若 昌代 松谷 聡 角田 拓 矢野 雄三 松尾 俊宏 片岡 政子 紺屋 浩之	当院におけるSGLT2阻害薬6剤の長期的効果と安全性の検討	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	2018. 5. 24-26
神崎 曉慶 片岡 政子 西岡 彩 助永 匡比古 間瀬 浩史 今井 教仁 紺屋 浩之	神経心理検査と画像検査に基づく2型糖尿病患者の認知機能調査，及びその背景因子について	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	2018. 5. 24-26
西岡 彩 助永 匡比古 間瀬 浩史 神崎 曉慶 田村 宏 上田 一仁 加隈 愛子 澤田 かおる 富島 智子 番田 由紀子 松若 昌代 松谷 聡 角田 拓 矢野 雄三 松尾 俊宏 片岡 政子 紺屋 浩之	当院における長時間作用型GLP-1受容体作動薬の臨床的効果と安全性の検討	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	2018. 5. 24-26
紺屋 浩之	一般演題 「糖尿病療養指導(その他2)」	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	2018. 5. 24-26

発表者	演題	学会名	月 日
松田 良信	メサドンへのオピオイドスイッチングがうまくいかない場合の原因は何か？	第24回日本緩和医療学会学術大会	2018. 6. 15
山根 和彦 片岡 政子 助永 匡比古 西岡 彩 間瀬 浩史 紺屋 浩之 竹田 晃 西浦 哲雄	三叉神経領域の感覚脱失を認めたウイルス性髄膜炎の1例	第220回日本内科学会近畿地方会	2018. 6. 16
安倍 瑞徳 臼井 健郎 池田 公一郎 竹村 忠晴 石井 久美子 竹田 晃 藤原 作平	急性肝障害が先行したカルバマゼピンによる非典型薬剤性過敏症候群の1例	第109回消化器病学会近畿支部例会	2018. 9. 29
Tsuneda K Yoshikawa A Okita K Inui Y Fujita S Takahara M Iwahashi H Kurebayashi S Konya H Otsuka A Handa N Fukui T Matsushima H Watanabe N Kawata S	Prospective cohort study of type 2 diabetes and the risk of cancer in Japan: 5-year interim report	54th The European Association for the Study of Diabetes (EASD) Annual Meeting 2018	29 1-5 October 2018
片岡 政子 今井 教仁 原田 恵理 紺屋 浩之 竹田 晃 西浦 哲雄	MMSE、MoCA-Jを用いて検出した糖尿病患者における早期認知障害(MCI)の特徴	第37回日本認知症学会学術集会	2018. 10. 12-14
山下 由紀子 西本 哲朗 近藤 裕文 松田 良信 西浦 哲雄	終末期血液疾患患者の緩和ケア病棟における輸血に関する検討	第80回日本血液学会学術集会	2018. 10. 12-14
紺屋 浩之	一般演題「CGM・FGM・SMBG 1」	第55回日本糖尿病学会近畿地方会	2018. 10. 27
中野 康佑 西 孝弘 山根 和彦 西岡 彩 助永 匡比古 間瀬 浩史 神崎 暁慶 片岡 政子 紺屋 浩之	1型糖尿病に合併した二次性低血糖の一例	第55回日本糖尿病学会近畿地方会	2018. 10. 27
松田 良信	緩和ケア病棟で疼痛コントロールを行った頭頸部がんの1例	第1回日本緩和医療学会関西支部学術大会	2018. 11. 11

発表者	演題	学会名	月日
松田 良信	投薬を拒否し、終末期での対応について 家族内で意見が分かれ、受容困難であった事例	第42回死の臨床研究会年次大会	2018.12.8
松田 良信	緩和ケア病棟を退院後5時間で在宅看取りとなった事例	第25回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会inとまち	2019.2.2
高倉 竜彦 白井 健郎 石井 久美子 池田 公一郎 竹村 忠晴 竹田 晃 加古 泰一 山門 亨一郎	バルーン下逆行性経静脈的塞栓術 (B-RTO) が著効した上腸間膜静脈～右卵巢静脈短絡路による反復性肝性脳症の一例	第110回消化器病近畿支部例会	2019.02.23

### 整形外科

発表者	演題	学会名	月日
荒木 信人 中馬 広一 松延 知哉 他	骨転移手術の術式決定要因についての検討	第51回 日整会 骨・軟部腫瘍学会	2018.7.13

### 産婦人科

発表者	演題	学会名	月日
木村 俊夫	骨盤臓器脱術後の全尿失禁症例	第78回NGB研究会	2018.4.26
木村 俊夫 宮田 明未 銭 鴻武	骨盤臓器脱に対する経膈メッシュは危険か？ ガイネメッシュ175例とポリフォーム224例の手術成績	第138回近畿産科婦人科学会	2018.6.9-10
木村 俊夫 宮田 明未 銭 鴻武 天満 久美子 宮本 愛子 佐治 文隆	当院における骨盤臓器脱の臨床統計 初診時の対応と経過	第92回兵庫県産科婦人科学会	2018.7.1
木村 俊夫 宮田 明未 銭 鴻武 天満 久美子 宮本 愛子 佐治 文隆	腹腔鏡下子宮筋腫核出術に対する当科での工夫	第92回兵庫県産科婦人科学会	2018.7.1
木村 俊夫 宮田 明未 銭 鴻武	腹腔鏡における助手の役割	第12回内視鏡手術研究会	2018.7.13
木村 俊夫 宮田 明未 銭 鴻武	骨盤臓器脱に対する前膈壁メッシュの2本アームと4本アームの尿失禁と排尿機能に関する影響	第20回女性骨盤底医学会	2018.7.21-22

発表者	演題	学会名	月日
宮田 明未 錢 鴻武 木村 俊夫 天満 久美子 宮本 愛子 佐治 文隆	腹腔鏡下子宮筋腫核出術施行中に持針器から脱落した2mm大の金属片を、術後腹部単純X線写真で同定し腹腔鏡下に回収した1例	第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2018. 8. 2-4
錢 鴻武 宮田 明未 木村 俊夫 天満 久美子 宮本 愛子 佐治 文隆	有茎性漿膜下筋腫の茎捻転と鑑別を要したクラミジア感染による急性腹症の1例	第58回日本産科婦人科内視鏡学会	2018. 8. 2-4
木村 俊夫 宮田 明未 錢 鴻武	骨盤臓器脱に対する前壁メッシュ（A-TVM）の術後排尿機能への影響 2本アームと4本アームの比較	第25回日本排尿機能学会	2018. 9. 27-29
錢 鴻武 木村 俊夫	術後腹部単純X線写真で破損した持針器の微細な部品を同定して回収し得た1例	第31回日本内視鏡外科学会総会	2018. 12. 6-8
木村 俊夫 宮田 明未 錢 鴻武	直腸脱を合併した骨盤臓器脱に経膈手術を行った5症例 TVM変法とNTRの同時施行	第13回日本骨盤臓器脱手術学会	2019. 3. 23-24

#### 外科

発表者	演題	学会名	月日
牧野 俊一郎 高橋 秀和 三吉 範克 原口 直紹 畑 泰司 松田 宙 山本 浩文 水島 恒和 土岐 祐一郎 森 正樹	大腸癌におけるDouble cortin-like kinase 1の発現の意義に関する基礎研究	第73回日本消化器外科学会総会	2018. 7. 18
牧野 俊一郎 高橋 秀和 三吉 範克 原口 直紹 畑 泰司 松田 宙 山本 浩文 水島 恒和 土岐 祐一郎 森 正樹	Fundamental study on the significance of expression of Double cortin-like kinase 1 in colorectal cancer	第77回日本癌学会学術総会	2018. 9. 27
田守 登茂治 水谷 伸 三方 彰喜 村上 雅一 牧野 俊一郎 佐々木 亨 松浪 周平	当院における外科手術患者に対する術前D-dimer値と静脈血栓症に関する検討	第59回日本脈管学会総会	2018. 10. 25

発表者	演題	学会名	月日
佐々木 亨 松浪 周平 牧野 俊一郎 田守 登茂治 畠野 尚典 村上 雅一 三方 彰喜 水谷 伸	当院における急性胆嚢炎61例の季節性変動に関する検討	第80回日本臨床外科学会	2018. 11. 22
松浪 周平 三方 彰喜 佐々木 亨 牧野 俊一郎 田守 登茂治 畠野 尚典 村上 雅一 水谷 伸	精神疾患患者にみられた医療用ゴム手袋異食による胃内異物の一例	第80回日本臨床外科学会	2018. 11. 22
牧野 俊一郎 松浪 周平 佐々木 亨 田守 登茂治 村上 雅一 三方 彰喜 水谷 伸	回腸導管による絞扼性イレウスに対して、イレウス解除術を行った一例	第80回日本臨床外科学会	2018. 11. 22

## 院内講演会

### 内科

発表者	演題	講座名	月日
中野 康佑	糖尿病とは	糖尿病教室	2018. 4. 14
松田 良信	全人的苦痛に対する緩和ケア がん患者等の療養場所の選択、地域における連携、在宅における緩和ケアの実際	第1回阪神圏域市立芦屋病院主催緩和ケア研修会	2018. 7. 1
紺屋 浩之	出張！糖尿病教室～糖尿病と生活習慣病	芦屋病院公開講座	2018. 10. 6
紺屋 浩之	糖尿病の診断治療は次のステージへ オーダーメイド治療に向けて	糖尿病教室	2018. 11. 9
白井 健郎	腸内細菌「科」薬剤耐性菌について～ ESBL産生菌・CREを中心に～	院内感染対策講義	2018. 11. 16 2018. 11. 30
白井 健郎	肝局所療法について	病棟看護師勉強会	2018. 11. 20
間瀬 浩史	糖尿病性腎症について	糖尿病教室	2019. 1. 11
白井 健郎	肝硬変～最近の話題～	芦屋病院公開講座	2019. 1. 12

発表者	演題	講座名	月日
西 孝弘 新門 加奈子 安井 彩子 山根 和彦 近藤 裕文 山下 由紀子 西本 哲郎 紺屋 浩之 西浦 哲雄 廣田 誠一	急性に進行し入院5病日に永眠された肺炎の1例	市立芦屋病院CPC(臨床病理検討会)	2019. 1. 23
紺屋 浩之	糖尿病総まとめ	糖尿病教室	2019. 3. 8
臼井 健郎	Clostridioides difficile感染症 ミニレクチャー	医師会・薬剤師会・病院MSD後援	2019. 3. 19

## 研究会および院外講演会

### 内科

発表者	演題	講座名	月日
紺屋 浩之	当院におけるSGLT2阻害薬6剤の長期的効果と安全性の検討	第11回Research Brush Up Conference	2018. 5. 13
松田 良信	国際学会でのメサドンに関する論議	兵庫県緩和ケア研究会	2018. 5. 31
紺屋 浩之	生活習慣病にならないために君たちはどう生きるべきか?	芦屋市立山手中学校健康講座	2018. 6. 16
安倍 瑞穂 臼井 健郎 池田 公一郎 竹村 忠晴 石井 久美子 竹田 晃	肝障害を来したDIHSの一例	南阪神肝疾患病診連携セミナー	2018. 7. 12
松田 良信	e-learningの振り返り	第10回北播磨圏域緩和ケア研修会	2018. 8. 5
紺屋 浩之	糖尿病と栄養管理について	テルモ社内講演会	2018. 8. 9
紺屋 浩之	糖尿病と健康寿命、健康格差～2025年までにすべきことは?	兵庫区医師会学術講演会	2018. 9. 21
松田 良信	メサペイン 適応と使用の実際	湘南東部・西部 Pain Conference	2018. 10. 4
松田 良信	新規オピオイドについて	芦屋緩和医療連絡協議会	2018. 10. 13
松田 良信	療養場所の選択と地域連携(肺がん)	第9回阪神地域・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 第10回丹波圏域・がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	2018. 10. 14



発表者	演題	講座名	月日
中野 康佑	1型糖尿病に合併した二次性低血糖の一例	第12回Research Brush Up Conference	2018. 10. 18
紺屋 浩之	糖尿病治療における食事療法の重要性, 糖尿病とおいしく生きようプロジェクト～いきいきライフクッキング～	公益社団法人日本糖尿病協会	2018. 11. 29
松田 良信	全人的苦痛に対する緩和ケア (肺がん) 療養場所の選択と地域連携(肺がん)	兵庫県立尼崎総合医療センター	2018. 11. 23
北川 泰生	紹介・逆紹介された症例について	阪神心疾患医療連携フォーラム	2018. 12. 6
伊坂 大二	心不全在宅診療を考える	心不全地域連携フォーラム	2018. 12. 13
間瀬 浩史	当院におけるSGLT 2 阻害薬の使用経験	DM Expert Conference	2018. 12. 14
松田 良信	日常診療における不眠について	第2回芦屋緩和医療連絡協議会	2019. 1. 26
松田 良信	メサドン 適応と使用の実際	公立学校共済組合中国中央病院緩和ケア学術講演会	2019. 1. 30
紺屋 浩之	糖尿病の診断と治療 最近の話題	芦屋市医師会学術講演会	2019. 2. 15
松田 良信	医療従事者のためのメンタルヘルス～不眠・不安～	第9回港島緩和ケア連携カンファレンス	2019. 2. 21
中野 康佑	当院におけるGLP-1受容体作動薬の腎機能に対する長期的作用についての検討	糖尿病エキスパートミーティング2019	2019. 2. 22
臼井 健郎	肝臓癌について	芦屋市医師会健康大学	2019. 2. 28
松田 良信	不眠について	第22回西宮緩和医療研究会	2019. 3. 9

## 整形外科

発表者	演題	講座名	月日
荒木 信人	デノスマブ・ビスフォスフォネートと骨腫瘍・骨代謝	第4回兵庫県整形外科医会	2018. 10. 20
荒木 信人	手の腫瘍	北摂整形外科集談会	2019. 1. 25
荒木 信人 中 紀文 大島 和也	骨転移治療の過去・現在・未来	骨転移多職種連携の会	2019. 2. 14
荒木 信人	JSTAR - 多科連携による肉腫治療へ -	Soft Tissue Sarcoma Seminar in Hyogo	2019. 3. 9

産婦人科

発表者	演題	講座名	月日
宮田 明未 錢 鴻武 木村 俊夫	意外とみんな悩んでいる！女性の排尿トラブルについて	芦屋健康大学講座	2018.10.11

論文発表

薬剤科 論文発表

著者	題名	雑誌名	巻号
Niki K Okamoto Y Nakajima S Uejima E	The analgesic effect of rescue administration of intravenous acetaminophen in cancer patients may be associated with sex and opioid dose, and the effect would appear to patients administered under 45 mg/day opioid (oral morphine equivalents)	Pharmazie	73(3):161-164(2018)
秋月 晶子 秋月 伸哉 中澤 葉宇子 安保 博文 伊勢 雄也 岡本 禎晃 海津 未希子 品田 雄市 山代 亜紀子 坂下 明大 加藤 雅志	緩和ケアチームセルフチェックプログラムの実施可能性に関する多施設調査	Palliative Care Research	13巻2号195-200(2018)
高子 優子 細見 健悟 久井 裕美子 杉田 裕貴 小牧 佐知子 稲田 智子 増本 憲生 大槻 裕朗 岡本 禎晃 金 啓二 名徳 倫明	抗がん薬のバイアル内圧の記載に関する兵庫県下67病院における薬剤師の意識調査	医療薬学	44巻11号363-369(2018)
Okamoto Y Morita T Tsuneto S Aoyama M Kizawa Y Shima Y Miyashita M	Bereaved Family Members' Perceptions of the Distressing Symptoms of Terminal Patients with Cancer	Am J Hosp Palliat Care	2018 Jul;35(7):972-977.
Niki K Okamoto Y Matano Y Ishii R Matsuda Y Takagi T Uejima E	Validation of a Short-Term, Objective, Prognostic Predictive Method for Terminal Cancer Patients in a Palliative Care Unit Using a Combination of Six Laboratory Test Items	J Palliat Med.	2019 Jan 14. doi: 10.1089/jpm.2018.0422. [Epub ahead of print]
Niki K Okamoto Y Maeda I Mori I Ishii R Matsuda Y Takagi T Uejima E	A Novel Palliative Care Approach Using Virtual Reality for Improving Various Symptoms of Terminal Cancer Patients	A Preliminary Prospective, Multicenter Study	2019 Jan 24. doi: 10.1089/jpm.2018.0527. J Palliat Med. [Epub ahead of print]

薬剤科 論文発表

著者	題名	雑誌名	巻号
Adachi T Sunohara M Enomoto K Sasaki K Sakaue G Fujita Y Mizuno Y Okamoto Y Miki K Yukioka M Nitta K Iwashita N Kitagawa H Shibata M Sasaki J Jensen M Fukui S	Japanese cross-cultural validation study of the Pain Stage of Change Questionnaire	PAIN Reports	Volume 4 - Issue 2 - p e711

臨床検査科 論文発表

著者	題名	雑誌名	巻号
近藤 弘 杉山 昌晃	6社の基準自動血球分析装置による血球計数と白血球分類の2010、2013、2016年外部精度管理評価	日本検査血液学会誌	20巻1号 Page132-142 2019

学会発表

薬剤科 学会発表

発表者	演題	学会名	月日
田中 育子 橋本 百世 角田 延子 仁木 一順 岡本 禎晃	オピオイド増量による認知機能低下と傾眠が生じた1例	第12回日本緩和医療薬学会年会	2018. 5. 24-26
竹澤 唯 中川 左理 粕谷 香 波多野 彩美 見田 秋与志 岡本 禎晃	入院中のランソプラゾール・ファモチジンの実態調査からみえてきた差異	第28回日本医療薬学会年会	2018. 5. 25-27
石田 昌平 辻 皓平 岡本 禎晃 西本 哲郎 石井 良平 松田 良信 角田 延子 中川 左理	腹水に対する利尿剤の効果比較についての単一施設における後方視的研究	第12回日本緩和医療薬学会年会	2018. 5. 25-27

薬剤科 学会発表

発表者	演 題	学 会 名	月 日
石井 良平 岡本 禎晃 西本 哲郎 山下 由紀子 橋本 百世 仁木 一順 加治佐 直子 宮武 佳菜枝 江頭 佐都美 橋野 陽子 松田 良信	緩和ケア病棟での新規抗てんかん薬の有用性の考察	第23回日本緩和医療学会学術大会	2018. 5. 25-27
青柿 和樹 橋本 百世 岡本 禎晃 森脇 健介 沼田 千賀子	オピオイド系鎮痛剤の投与量に影響を与える因子の調査研究	第12回日本緩和医療薬学会年会	2018. 5. 25-27
仁木 一順 岡本 禎晃 前田 一石 森 一郎 石井 良平 上田 幹子 松田 良信 上島 悦子	終末期がん患者に対するVRを用いたケアの可能性	第7回エビデンスに基づく統合医療研究会	2018. 5. 25-27
仁木 一順 岡本 禎晃 福田 俊一 森本 彩香 岡本 美緒 宮口 翔 宮武 佳菜枝 加治佐 直子 石井 良平 松田 良信 上島 悦子	Virtual Realityを応用した新たな緩和ケア手法の開発に向けた検討	第23回日本緩和医療学会学術大会	2018. 5. 25-27
仁木 一順	Virtual Realityを用いて終末期がん患者の症状・QOL改善に貢献できるのか？	第23回日本緩和医療学会学術大会	2018. 6. 15-17
松田 良信 岡山 幸子 吉川 善人 岡本 禎晃	腕神経叢症候群でのメサドンの有効性について	第23回日本緩和医療学会学術大会	2018. 6. 15-17
松田 良信 田上 舞 石井 良平 加治佐 直子 田中 正美 江頭 佐都美 西山 菜々子 橋野 陽子 黒岩 あゆみ 岡本 禎晃 金井 奈穂子	緩和ケア病棟での入院期間が長くなる中、患者・家族間で意見が対立した1事例	第31回日本サイコオンコロジー学会総会	2018. 6. 15-17

薬剤科 学会発表

発表者	演 題	学 会 名	月 日
橋本 百世 青柿 和樹 沼田 千賀子 石井 良平 西本 哲郎 松田 良信 岡本 禎晃	オピオイド鎮痛薬の使用量に関係する因子の検索	第23回日本緩和医療学会学術大会	2018. 6. 15-17
岡本 禎晃	がん患者に使用される向精神薬の特徴と注意点	第114回日本精神神経学会学術総会シンポジウム	2018. 6. 21-23
岡本 禎晃	がん患者のせん妄：多職種アプローチの現状と課題	第16回日本臨床腫瘍学会学術集会シンポジウム	2018. 7. 8
岡本 禎晃 堀 彩 堀 早苗 山下 裕之 大原 英昭 齊藤 千紗 田村 宏 佐治 文隆	医療者が演奏または企画する院内コンサート	第23回日本緩和医療学会学術大会	2018. 7. 19-21
岡本 禎晃	切れ目のない地域緩和ケアのための病院薬剤師の役割	第12回日本緩和医療薬学会年会シンポジウム	2018. 8. 25-26
岡本 禎晃	緩和ケア病棟における家族ケア	第12回日本緩和医療薬学会年会シンポジウム	2018. 8. 25-26
岡本 禎晃	こころにのこる1症例	第12回日本緩和医療薬学会年会年会長特別企画	2018. 8. 31-9. 1
Kazuyuki Niki Yoshiaki Okamoto Yoshinobu Matsuda Ryouhei Ishii Shinichiro Nakajima Kanae Miyatake Naoko Kanai Naoko Kajisa Etsuko Uejima	Investigation of Olfactory Dysfunction in Patients with Terminal Cancer: Are There Any Factors That Cause the Olfactory Dysfunction and Are There Any Differences in the Sense of Smell between Patients with Cancer and Healthy Young People?	第10回 欧州緩和ケア学会 (10th World Congress of the European Association for Palliative Care)	2018. 9. 21-22
船江 智子 田中 育子 中野 康佑 西岡 彩 間瀬 浩史 紺屋 浩之 岡本 禎晃	デュラグルチドによる重度の嘔吐が生じた一例	第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会	2018. 10. 13-14
俣野 柚香 仁木 一順 岡本 禎晃 松田 良信 石井 良平 上田 幹子 高木 達也 上島 悦子	終末期がん患者に対する臨床検査値を用いた客観的予後予測法の開発	第2回日本医療薬学会フレッシュャーズ・カンファランス	2018. 11. 23-25

薬剤科 学会発表

発表者	演題	学会名	月日
仁木 一順 岡本 禎晃 前田 一石 森 一郎 石井 良平 松田 良信 上島 悦子	革新的医療機器開発の最前線 「新しいEnd-of-lifeケアの創出 を目指したVirtual realityの医 療応用	日本薬学会 第139年会シンポジウ ム	2019. 1. 19-20
岡本 禎晃	緩和医療の薬学的アプローチ せん妄への対応	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大 会シンポジウム	2019. 3. 21-23

臨床検査科 学会発表

発表者	演題	学会名	月日
杉山 昌晃	検査部門の収益を考える	第3回大臨技医学検査学会	2019. 2. 10

栄養管理室 学会発表

発表者	演題	学会名	月日
澤田 かおる	FGM導入がセルフケア行動につな がった一例	日本糖尿病学会	2018. 5. 24
澤田 かおる 加隈 愛子 紺屋 浩之	当院におけ個別栄養食事管理介入 の現状と課題	第22回日本病態栄養学会年次学術集 会	2019. 1. 13

リハビリテーション科 学会発表

発表者	演題	学会名	月日
田村 宏 紺屋 浩之	骨粗鬆症を呈した2型糖尿病患者 における下肢筋力の低下はフレイル を進行させる	第61回日本糖尿病学会年次学術 集会	2018. 5. 24-26
西山 菜々子 岡村 仁	終末期がん患者を対象としたリハ ビリテーションではどのような内容 が実施されていたか	第23回日本緩和医療学会学術大会	2018. 6. 15-17
田村 宏 玉木 彰	3ヶ月の呼吸リハビリテーション は慢性閉塞性肺疾患の長期的な呼 吸機能の変化に影響を与えるか	第2回日本呼吸・心血管・糖尿病理 学療法学会合同学術集会	2018. 7. 16
田村 宏 玉木 彰	静的肺過膨張を呈するCOPD患者の 呼気筋筋厚は運動耐容能と関係す る	第4回日本呼吸ケア・リハビリテー ション学会 近畿支部学術集会	2018. 7. 28
西山 菜々子 岡村 仁	作業療法士によるADL評価はがん 患者の終末期における変化を捉え るための手段として有用か？	第52回日本作業療法士学会	2018. 9. 7-8

リハビリテーション科 学会発表

発表者	演 題	学 会 名	月 日
西山 菜々子 岡村 仁	終末期がん患者が死亡直前期までリハビリテーションを継続する要因に関する調査	第56回日本がん治療学会学術集会	2018. 10. 18-20
田村 宏 玉木 彰	急性増悪後のCOPD患者の随意的咳嗽力は低下している	第28回呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	2018. 11. 9-10
西山 菜々子	いたみどめ調整入院によるフェンタニルクエン酸塩貼付剤の一時的な使用が効果的であった腰椎変形性側湾症の一例	第11回日本運動器疼痛学会	2018. 12. 1-2
田村 宏 玉木 彰	ひょうご呼吸ケア・ネットワークで作成した情報提供書を用い生活期に呼吸リハビリテーションを導入した一症例	第92回日本呼吸器学会近畿地方会	2018. 12. 8
田村 宏 玉木 彰	高齢慢性閉塞性肺疾患患者の歩行速度は身体活動量と関連している	第58回近畿理学療法学会学術大会	2019. 1. 20
石井 幸世	薬剤性パーキンソン症候群に後進歩行を行い日常生活動作能力の改善を早期に認めた一例	平成30年度新人発表会	2019. 2. 3

放射線科 学会発表

発表者	演 題	学 会 名	月 日
Mayumi Kinoshita Hiroshi Goto Masayuki Sakamoto Hisao Matsuzuki Daiki Nagase Ryouhei Ishii Jota Ikeda	The Clinical Utility of Point-of-Care Whole Blood Creatinine Testing for the Assessment of Renal Function.	The 20th Vietnamese Congress of Radiology and Nuclear Medicine	2018. 8. 17-19
阪本 正行 長瀬 大希 木下 真由美 今井 教仁 松月 久穂 後藤 博 池田 謙太	VF検査でcricopharyngeal barが見つかり神経筋疾患の一助となった2例.	第34回日本診療放射線技師学術大会	2018. 9. 21-23
Mayumi Kinoshita Hiroshi Goto Masayuki Sakamoto Hisao Matsuzuki Daiki Nagase Ryouhei Ishii Jota Ikeda	The evaluation of Point-of-Care Creatinine Testing for the Assessment of Renal Function	平成30年度近畿地域診療放射線技師会学術大会	2019. 2. 17



看護局 学会発表

発表者	演 題	学 会 名	月 日
今井田 真実 他	ストレスと解離傾向が看護師のバーンアウトに及ぼす影響	第59回日本心身医学会総会	2018. 6. 8-9
今井田 真実 他	看護師の首尾一貫感覚と解離傾向がバーンアウトに及ぼす影響-クラスタ分析を用いたサブ・タイプの抽出-	日本健康心理学会第31回大会	2018. 6. 23-24
今井田 真実 他	看護師の共感性と首尾一貫感覚がバーンアウト症状に及ぼす影響-共感の志向性に注目して-	日本心理学会第82回大会	2018. 9. 25-27
今井田 真実 他	看護師において共感的コーピングと首尾一貫感覚がバーンアウト症状に及ぼす影響-健康生成モデルに適合する汎抵抗資源の検討-	関西心理学会第130回大会	2018. 10. 28
三井 真由美	手術室ラダーをもとに作成した医師看護師満足度調査を試みて	第32回日本手術看護学会年次大会	2018. 11. 23
三井 真由美	周術期を通じた手術室看護師の役割～患者満足度調査と手術室看護師の質問紙調査結果より～	第32回日本手術看護学会年次大会	2018. 11. 24
橋野 陽子	生前からエンバーミング導入を検討しgood deathを迎えた1例	第42回死の臨床研究会年次大会	2018. 12. 8-9
中島 恵実 阪本 純子	埋め込み型中心静脈ライン（以下CVポート）関連血流感染予防～挿入部の管理の工夫とその効果～	第13回日本医療マネジメント学会兵庫支部 学術集会	2019. 2. 17

院外活動

薬剤科 院外活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
橋本 百世	施設報告 ヴォトリエントで気胸を起こした一例	第34回 N-HOPE	2018. 5. 8
仁木 一順	がん患者の予後予測	第2回兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会共催講演会	2018. 5. 13
橋本 百世	ナルベイン注を使用した症例について	兵庫県病院薬剤師会DI委員会	2018. 7. 13
仁木 一順	がん患者の予後予測	2018年度大阪大学薬学部卒後研修会	2018. 7. 22
橋本 百世	ヒドロモルフォンについて	第8回阪神緩和医療ネットワーク学術講演	2018. 9. 7
橋本 百世	がん疼痛治療剤ヒドロモルフォンとオピオイド誘発性便秘症治療薬ナルデメジンについて	神戸薬科大学兵庫県生涯研修会第4回	2018. 11. 4

栄養管理室 院外活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
澤田 かおる	病院栄養士の仕事	兵庫県立西宮今津高等学校	2018. 6. 26
加隈 愛子	栄養ワンダー2018	芦屋栄養士会	2018. 8. 23

リハビリテーション科 院外活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
田村 宏	手術をするのはまだ早い！膝を鍛える効果的な筋トレ！	健康講座	2018. 10. 27
沖 侑太郎 田村 宏	知っておくべき急性期・回復期・生活期における呼吸リハビリテーションの視点	第23回ひょうご呼吸ケアネットワーク研修会	2018. 11. 4
田村 宏	健康寿命の延伸と介護予防に着目した高齢リハビリ外来の開設	芦屋クリニカルカンファレンス	2019. 2. 26

看護局 院外活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
津久茂 康予	認知症のタイプと周辺症状のケア	認定看護師地域研修会	2018. 7. 19
阪本 純子	褥瘡対策ストーマケア	研修会	2018. 8. 5-8. 6
陰山 美穂子	スタッフナースが取り組む退院支援	兵庫県看護協会	2018. 10. 13
柳 良美	緊急度、重症度の判断	認定看護師地域研修会	2018. 10. 18
中島 恵実	介護施設における感染管理	一般社団法人 神戸市老人福祉施設連盟 看護師会	2018. 10. 23
阪本 純子	スキンケア	関西ストーマ講習会	2018. 11. 3
神谷 裕子 陰山 美穂子 津久茂 康予 池田 万里子	中堅看護師の育成に効果的なリーダーシップ研修	兵庫県看護協会実践研究会	2018. 11. 23
吉田 由美子	安心してがん化学療法を受けていただくために～通院治療を継続する3つのポイント	芦屋市民公開講座	2018. 12. 8
荒木 緑 阪本 純子	患者安全を考えよう スキンケアをどう防ぐ！	兵庫県看護協会阪神南医療安全研修会	2019. 1. 30

臨床検査科 院外活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
杉山 昌晃	検査説明・相談の現状	平成30年度 第1回 総合管理部門勉強会	2018. 5. 19
杉山 昌晃	立場・環境・角度を変えて検査全般を見直してみませんか？	アークレイオーションアカデミー 2018大阪	2018. 9. 29

院内活動

栄養管理室 院内活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
澤田 かおる	必要な食事の量と質について	糖尿病教室	2018. 5. 11
加隈 愛子	嚥下食を体験しよう	NST 勉強会	2018. 5. 22
澤田 かおる	療養指導に必要なこと	糖尿病療養講座	2018. 6. 8
加隈 愛子	糖尿病食体験会 間食について	糖尿病患者会 あしや会	2018. 6. 8
加隈 愛子	外食や間食、上手な調整方法を提案	糖尿病教室	2018. 9. 7
加隈 愛子	年末年始の食事の工夫	糖尿病教室	2018. 10. 12
澤田 かおる	シックデイの食事	糖尿病教室	2018. 12. 14
澤田 かおる	糖尿病食体験会 非常食について	糖尿病患者会 あしや会	2019. 2. 8

看護局 院内活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
阪本 純子	スキン-ケア	院内認定看護師研修会	2018. 7. 12
濱田 佐和子	周術期のケア	芦屋病院公開講座	2018. 8. 5
陰山 美穂子	最期まで自分らしくを支える	CN研修 (9月)	2018. 9. 13
橋野 陽子 江頭 佐都美 陰山 美穂子	その人らしく支えるために私たちが ができること	第3回市立芦屋病院認定 看護師研修会	2019. 2. 21
山下 潤也 山本 麻衣花 有田 麻衣子 柴田 千晴	迷子をなくそう	院内研究発表会	2019. 2. 22
高木 毬衣 盛元 彩花 久保田 早紀 酒井 章江	しずかちゃんに学ぶアサーション の達人		2019. 2. 22
前川 友世	口腔ケアにおける実態調査-継続 した口腔ケア定着化への課題-		2019. 3. 22
堀 文乃	働きやすい環境作りを目指して -16時間夜勤の疲労度から考察し て-		2019. 3. 22
志水 あやか	医療事故発生後の看護師の感情体 験とその心理的変化の調査		2019. 3. 22

看護局 院内活動等

発表者	演 題	講 座 名	月 日
今井田 真実	看護師のバーンアウトに影響を及ぼす因子の検討-解離傾向・首尾一貫感覚・共感性・共感的コーピングに着目して-	院内研究発表会	2019. 3. 22
松本 里美	院内におけるポータブルトイレの処理方法について -現状把握と標準的予防策の必要性-		2019. 3. 22
利田 なつみ	プリセプターシップにおいて現場で直面している問題とその解決策について		2019. 3. 22

## 平成30年度 実習受入実績

受入科等	学校等	人数	実習期間
診療局	兵庫医科大学	9名	31年2月12日～2月22日 31年2月25日～3月8日 31年3月11日～3月22日
	兵庫医科大学病院	5名	5月1日～5月31日 6月1日～6月30日 8月1日～11月30日 12月1日～31年1月31日 31年2月1日～3月31日
	大阪大学	4名	7月17日～7月27日 11月12日～11月22日
	甲南女子大学（ペインクリニック内科見学）	7名	10月31日, 11月7日, 14日
看護局	西宮市医師会看護専門学校	16名	5月8日～5月24日 7月10日～7月27日 9月4日～9月20日
	神戸看護専門学校	35名	7月10日～7月26日 11月27日～12月13日 31年1月15日～1月31日 31年2月26日～3月14日
	兵庫大学	38名	8月28日～8月30日 9月10日～9月21日 10月1日～10月12日 11月12日～11月22日 31年2月13日～2月22日 31年2月26日～3月7日
薬剤科	神戸学院大学（早期体験）	4名	9月13日
	神戸学院大学	1名	11月5日～31年2月3日
	兵庫医療大学	1名	8月6日～10月28日
	同志社女子	2名	5月7日～7月29日 11月5日～2月3日
	姫路獨協大学	1名	5月7日～7月22日
	大阪薬科大学	1名	8月6日～10月28日
	神戸薬科大学	2名	5月7日～7月29日 11月5日～2月3日
	武庫川女子大学（早期体験）	4名	6月5日
	武庫川女子大学	2名	5月7日～7月29日 8月6日～10月28日
フタツカ薬局	1名	12月11日	
臨床検査科	大阪医療技術学園専門学校	1名	6月19日～9月6日
	神戸常盤大学	1名	31年1月15日～3月8日
	森ノ宮医療大学	1名	10月1日～11月30日
	神戸学院大学	2名	8月1日～8月14日 31年1月8日～1月29日
リハビリ科	宝塚医療大学	3名	5月7日～6月17日 7月2日～8月26日 7月23日～9月9日
	川崎医療福祉大学	1名	5月7日～7月6日
	兵庫医療大学	2名	9月10日～9月22日 31年1月7日～3月2日
	大阪保健大学	1名	31年1月28日～2月16日
栄養管理室	園田学園女子大学	2名	5月7日～5月18日
	神戸松蔭女子学院大学	2名	5月21日～6月1日
	武庫川女子大学	4名	6月4日～6月22日 6月25日～7月13日
	神戸女子大学	2名	8月6日～8月17日
	神戸学院大学	2名	9月3日～9月14日
	千里金蘭大学	2名	31年2月4日～2月15日
トライやるウィーク	山手中学校	3名	5月21日～5月25日
	潮見中学校	3名	5月28日～6月1日
	精道中学校	3名	6月4日～6月8日
	芦屋国際中等教育学校	3名	11月5日～11月9日
救急	芦屋市消防本部	6名	2月5日 2月6日